

伊興遺跡公園管理運営事業



足立区 地域のちから推進部 生涯学習支援室 地域文化課 文化財係

目次

- 1 伊興遺跡公園展示館とは
- 2 展示館の取り組み
- 3 現状の課題
- 4 今後の展望



1 伊興遺跡公園・展示館とは

【開館日】平成5年10月1日

【所在地】足立区東伊興4丁目9-1

【開館時間】午前10時～午後4時 ※入館料無料

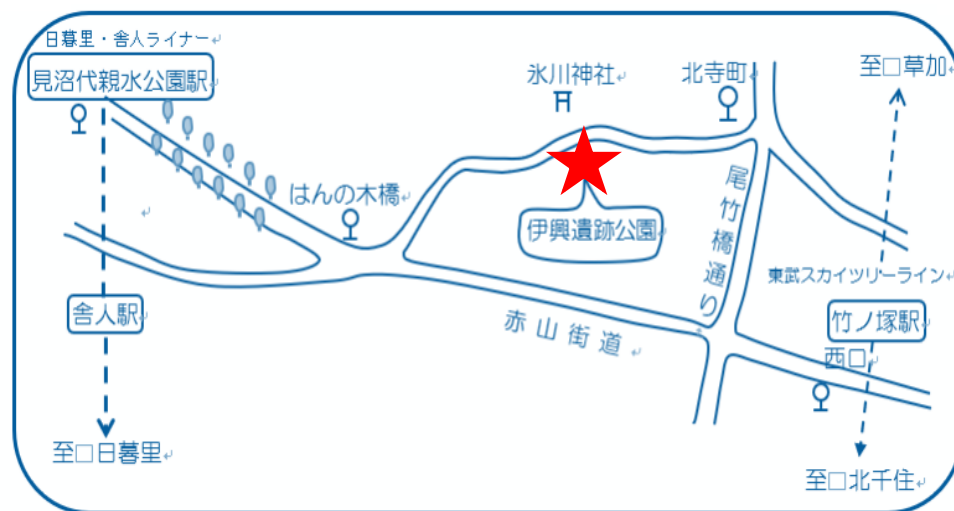
【休館日】年末年始の12月28日～1月4日

【交通】竹ノ塚駅から徒歩20分

【公園規模】敷地面積: 2,716.00m²

【展示館規模】建築面積: 223.44m²

延床面積: 311.45m²



(1) 施設概要

都内屈指の古代祭祀遺跡である「伊興遺跡」を保存・公開する歴史公園です。敷地内には屋内施設の「**展示館**」と、屋外の「**復元竪穴住居**」を併設しています。



(2) 沿革

戦前：郷土史家が遺物を採集し、価値が徐々に認知される。

昭和32年：最初の本格的な発掘調査が実施される。

平成5年：伊興遺跡公園および展示館が正式に開園・開館。

※現在も公園の地下には、未調査の遺物(土器や勾玉など)が多数眠っています。



(3) 予算・決算及び利用者数

年度	当初予算 (千円)	歳出決算額 (千円)	来園者数 (人)	来館者数 (人)
令和5年度	6,842	6,195	14,709	4,357
令和6年度	7,448	6,277	13,206	3,780
令和7年度	7,977	6,079	11,875	3,069

ア 当初予算は、警備保障等の施設維持管理費による増。

イ 来園者の減は、猛暑やインフルエンザの警報発令により、個人や施設利用者の外出が控えられたことが主因。



2 展示館の取り組み

(1) 展示内容

伊興遺跡で発掘された土器や勾玉など、古代の人々の暮らしや祭祀(さいし)について学べる**常設展示**を中心に公開。公園には**方形周溝墓**(ほうけいしゅうこうぼ)や、生活の様子を再現した**竪穴住居**があります。



方形周溝墓



竪穴住居での生活の様子

(2) 事業の取り組み【教育・普及活動】

春・夏・秋の**季節イベント**を開催するほか、小学校の施設見学や職場体験の受け入れ、スタッフによる**出張授業**など、地域や教育機関との連携を推進しています。



伊興遺跡公園展示館2025夏イベント

本で広がる足立の古代

夏の自由研究や調べる学習に、古代について調べてみませんか？
学芸員が皆さんの「知りたい！」をサポートします。

〇全4回
①8/22(金)午前の部 10:00～12:00
②8/22(金)午後の部 13:00～15:00
③8/23(土)午前の部 10:00～12:00
④8/23(土)午後の部 13:00～15:00

〇場所
ギャラクシティ地下2階レクリエーションホール

伊興遺跡公園展示館秋イベント

勾玉ネックレスづくり

毎年恒例伊興遺跡公園の体験イベント！
今回は勾玉ネックレスづくりを開催します。古代の人々の暮らしや足立区の歴史について学びましょう！

日時:2025年11月15日(土)
①10:00～12:00 ②13:00～15:00(全2回)
※最終入場は①11:00 ②14:00

場所:伊興遺跡公園展示館
定員:各回30人
参加費用:無料
対象:小学生
※未就学児は保護者同伴

参加者には「お宝カード」プレゼント！

参加方法:事前申込制
※足立区オンライン申請システムからお申し込みください

参加無料 予約不要

伊興タイムトラベル

粘土で土器づくり
定員:午前50人/午後50人
作成時間:30分から1時間程度

土器は土を練って作った入れ物で、煮や物や水を入れたり、料理に使ったりしていた。粘土で土器をアタリサイズの土器をつくり、煮や料理を使って想像をつけます。

たて穴住居で記念撮影
その場で写真をプレゼント！

火おこし体験

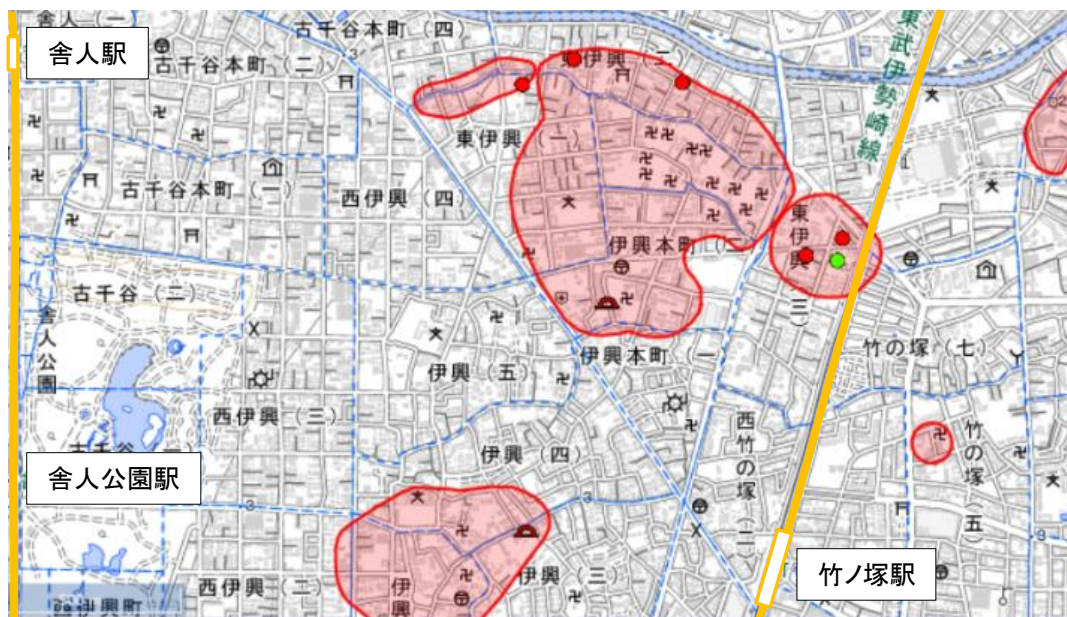
3月14日(土)
午前の部:10時～12時
午後の部:13時～15時
【最終入場各都1時間前まで】
小学生以下(未就学児は保護者同伴必須)
※参加費に別途申し込み不要

足立区 地域文化課 文化財係 ☎ 03-3880-5984
足立区伊興遺跡公園展示館 ☎ 03-3886-0111

伊興タイムトラベル 検索

(3)事業の取り組み【試掘・文化財保護】

- ①試掘調査：周知の埋蔵文化財包蔵地内で開発計画がある場所で、「遺跡が眠っているか」を確かめる調査を実施しています。
- ②文化財保護事業：発掘調査による記録保存や、出土品の管理、普及活動に努めています。



東京都教育委員会「東京都遺跡地図情報インターネット提供サービス」より改変

○…周知の埋蔵文化財包蔵地
遺跡が地中に埋まっていることが知られている区域。

※範囲は地表からの観察（表面採集）や試掘調査で決定され、その範囲は流動的なものです。

3 展示館の現状

(1) 施設の老朽化

平成5年の開館以来33年が経過により、
展示館と竪穴住居の全体が老朽化している。



竪穴住居

(2) 展示内容の固定化

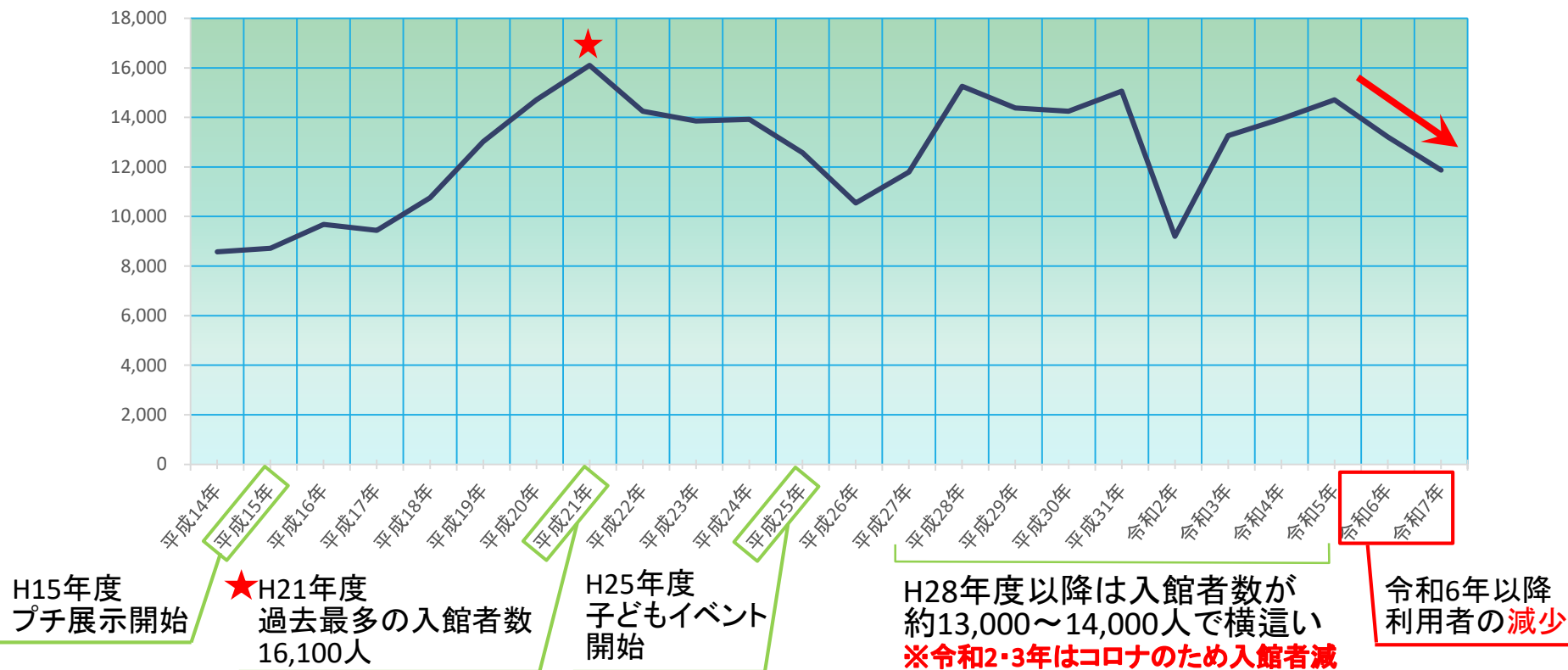
展示ケースや什器の固定により展示替え
ができない。



展示館中央のケース

(3) 施設利用者の状況

施設利用者数



プチ展示や子どもイベント開始後に入館者の増加が認められる。

⇒利用者減少脱却のために新たな事業により、伊興遺跡に興味・関心を持ってもらい、愛着を持つ層を広げる必要がある。

4 取り組んでいく課題

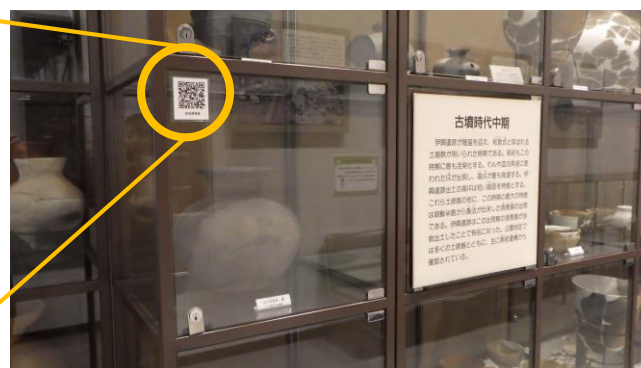
(1) 足立区の歴史・文化の探求と情報発信

開館以来蓄積された資料や最新の発掘成果を、現在の視点で再構成し、区民へ分かりやすく伝えるための展示構成について検証を重ねる。

QRコード等の安価で柔軟なデジタルツールを導入し、固定された解説情報のアップデートを段階的に進める。



実際のQRコード



展示品とQRコード

(2) 歴史と文化を楽しみながら価値を発見する

専門性や体験を重視した生涯学習の機会を提供し、
区民の学習を支援する仕組みづくりを模索する。



ハンズオン
(伊興遺跡公園展示館)

写真
(土器パズルの様子)

写真
(土器パズルの様子)

土器パズルの例

(3) 展示空間の再構築

① 中央のフリースペース化

現在の祭祀模型、伊興遺跡出土状況レプリカ、古墳時代前期から後期にかけての土器展示の撤去を見据え、企画展などを行うことのできるスペースへの転換を視野に入れる。

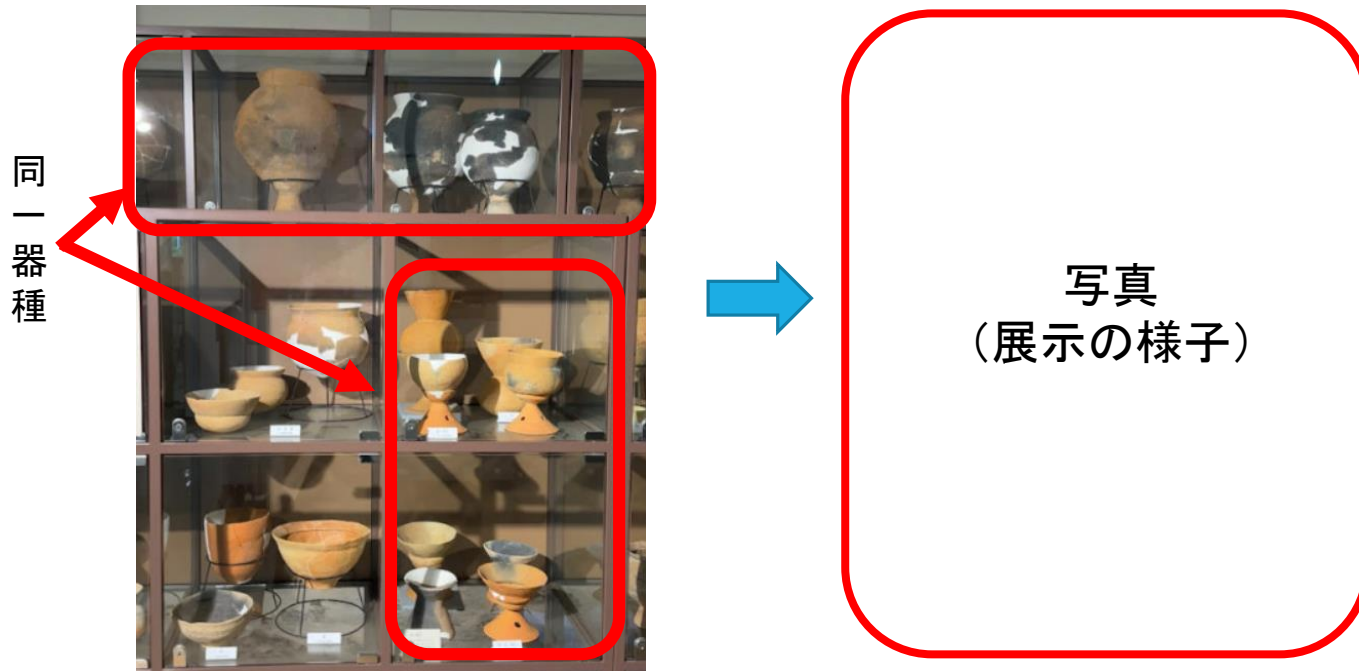


写真
(フリースペースの様子)

土器展示は壁面の通史的展示の中の生活や祭祀の中で使っていた様子で展示。

②器種1点のスリム化

現在は同器種の土器類が複数展示してあるが、テーマごとに一つの器種に対して1点の展示に絞ることによる展示のコンパクト化について議論を進める。



(例) 土師器の坏(つき)・甕(かめ)・壺(つぼ)をそれぞれ1点ずつ展示する。

③通史(常設展示)を展開する壁面展示

足立区の発掘調査に基づいた通史的展示の導入、および展示入替を可能とする構造について精査する。

- ア 現展示ケースの撤去
- イ ピクチャーレールの新設
- ウ 新しい展示ケースの導入



ケースや壁面の展示が固定され、
移動が困難

写真
(展示の様子)

縦移動可能なレール

写真
(展示の様子)

横移動可能なレール

(4) 滞在機能の向上

憩いと学びの空間整備

1階から視認しづらかった2階スペースについて、椅子やベンチ、映像機器を設置による「快適な休憩スペース兼映像・情報検索コーナー」への改修を検討する。

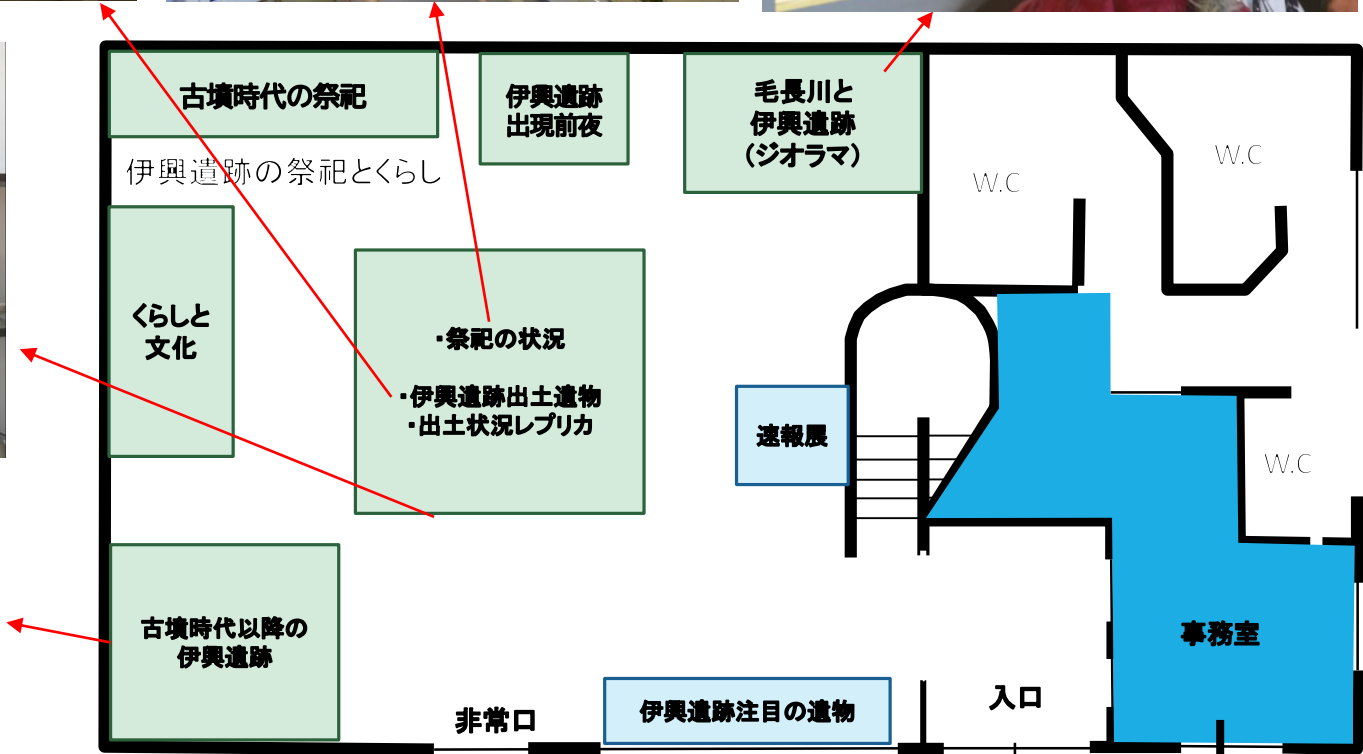
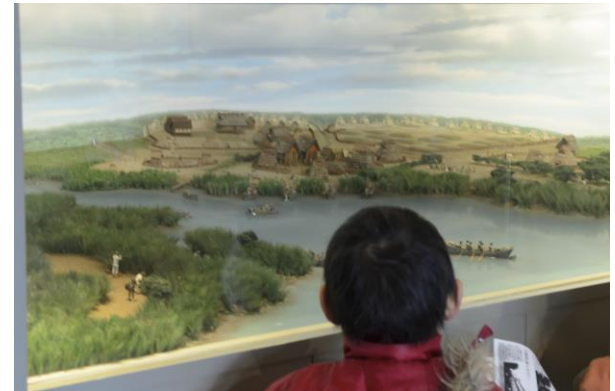


現在の2階スペース

写真
(2階スペースの様子)

2階スペース活用案

【参考】現在の展示館



[illegible]

17

ご清聴ありがとうございました。

歴史を学び、
文化財を守ることは、
日本を大切にすることですね。

伊興遺跡公園では、都内屈指の古代祭祀跡を保存しています。未来に向け貴重な教材として残すことを真剣に考えていただける一人でも多くの区民が必要です。





令和8年度 事務事業評価

足立ブランド認定推進事業

区民評価委員会 プレゼンテーション資料

ADACHI BRAND

産業経済部 産業振興課
ものづくり振興係



1. 足立ブランドとは

1

ADACHI BRAND



卓越した技術の認定

区内にある高いポテンシャルを持つものづくり企業を
ブランド認定し、信頼性を担保

「ものづくりの街・足立」を代表するリーディング企業



イメージアップ

足立区の産業力をPRし、
負の地域イメージを「誇れるものづくりの街」へ



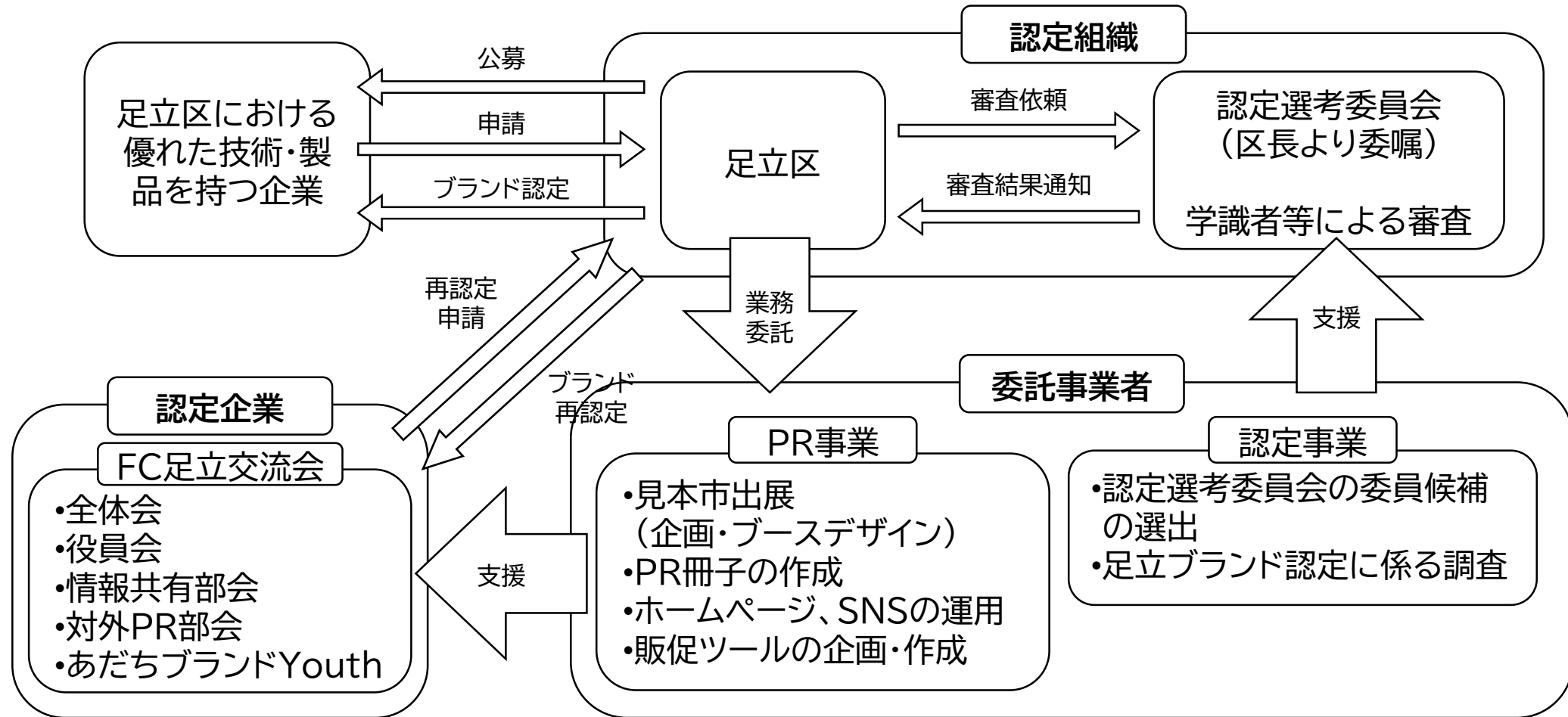
8業種・56社

現在、皮革・樹脂・乗物・生活関連・工芸品・
印刷・金属・機械器具の8業種56社が認定



1. 足立ブランドとは

「足立ブランド認定推進事業」の全体像





2. 投入資源

事業費の内訳概要（41,616千円）

	区分	投入事業費 (千円)	使途	主な内訳
1	再認定事業	1,495	外部専門家等による再認定選定 委員会の実施	● 委員報酬 ● 財務状況、労務状況調査委託費
2	PR事業	39,780	タウン誌作成、見本市出展	● PR業務委託費 ● 見本市出展小間料
3	その他活動支援	341	部会活動支援、イベント出展等	● ものづくりワークショップ体験 キット代 ● のぼり旗作成費

3. 事業実施に対する活動

～成果指標(KPI)～

4

ADACHI BRAND



指標① 見本市平均名刺獲得数

達成率 74%

【目標】50枚 / 【実績】37枚 (R6 43枚)

【要因分析】

見本市自体の来場者数が減少していることが要因と想定

指標② 公式ウェブサイト閲覧数

達成率 97%

【目標】65,000件 / 【実績】62,980件
(R6 63,695件)

【要因分析】

PR事業施策(プレスリリース配信・SNSショート動画等)により、高い水準を維持

4. 実施事業① 足立ブランド再認定事業

5

ADACHI BRAND



8 / 9

ブランドの「質」と信頼を守る、厳格なスクリーニング

新基準の厳格な適用

単なる継続の再認定を廃止し、令和6年度に制定した新基準に則った厳しい再認定制度を実施

クオリティの担保

令和7年度対象となった9社のうち、認定基準をクリアした8社を再認定(1社は自主辞退)

4. 実施事業② 足立ブランドPR事業 ～デジタル～



デジタルとアナログを融合した情報拡散



ショート動画「匠の技が凄すぎた」

足立区出身のお笑い芸人 しずる 純を起用。親しみやすさと面白さを追求した2分程度の動画を配信



【再生回数】 平均 18,000回 / 社
(合計 945,131回)

【YouTubeチャンネル登録者数】
32名⇒823名



プレスリリース配信

認定企業の技術や製品の情報をメディア関係者に発信。各種媒体に露出し、社会的信用と知名度の向上を狙う

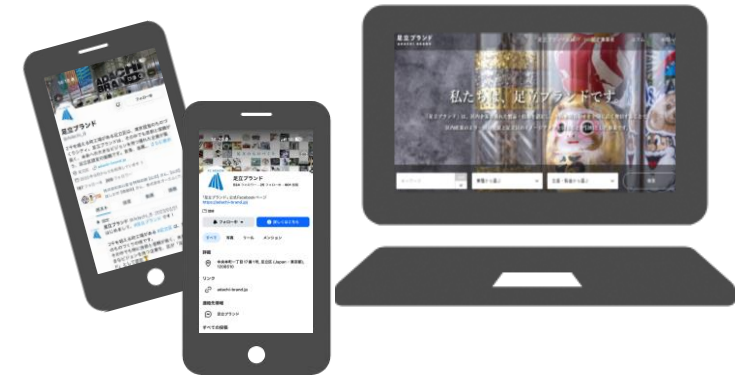


【PV数】 31,835回
【転載数】 2,056回



SNS/ホームページの運営

XなどSNSを活用し、認定企業の情報やイベントの様子を発信



【HP年間総閲覧数】 62,980件

4. 実施事業② 足立ブランドPR事業 ～アナログ～

FC ADACHI



1

ADACHI BRAND

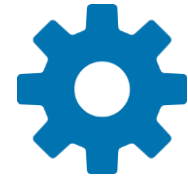
デジタルとアナログを融合した情報拡散



あだちブランドタウン誌「うできき足立」
区民やイベント用に、認定企業を8社ずつ紹介するタウン誌を作成



認定企業冊子
全認定企業の技術力や製品等を写真付きで網羅した冊子を作成



見本市への出展
年に2回見本市へ出展し、商談促進、販路拡大をサポート



【作成部数】 10,000部



【作成部数】 3,500部



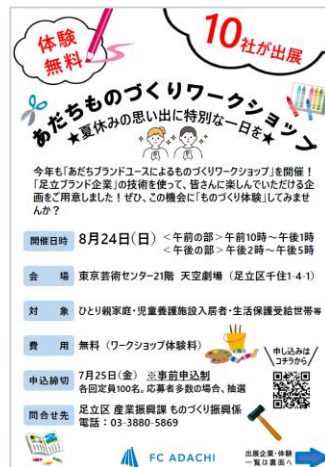
【名刺獲得数】 827枚
【商談可能性件数】 74件
【商談可能性金額】 22,340,000円

4. 実施事業③ その他



FC足立

役員会での情報共有や意見交換、全体会での認定企業同士の交流、3つの部会の自主的な活動



イベント出展

伝統工芸品展、夏休みものづくり体験・工場見学、千本桜まつりなどへ出展



部会の一つ「足立ブランドYouth」では、ひとり親家庭や児童養護施設などの子ども向けにもものづくりワークショップを開催

PRツールとして不織布バッグを作成

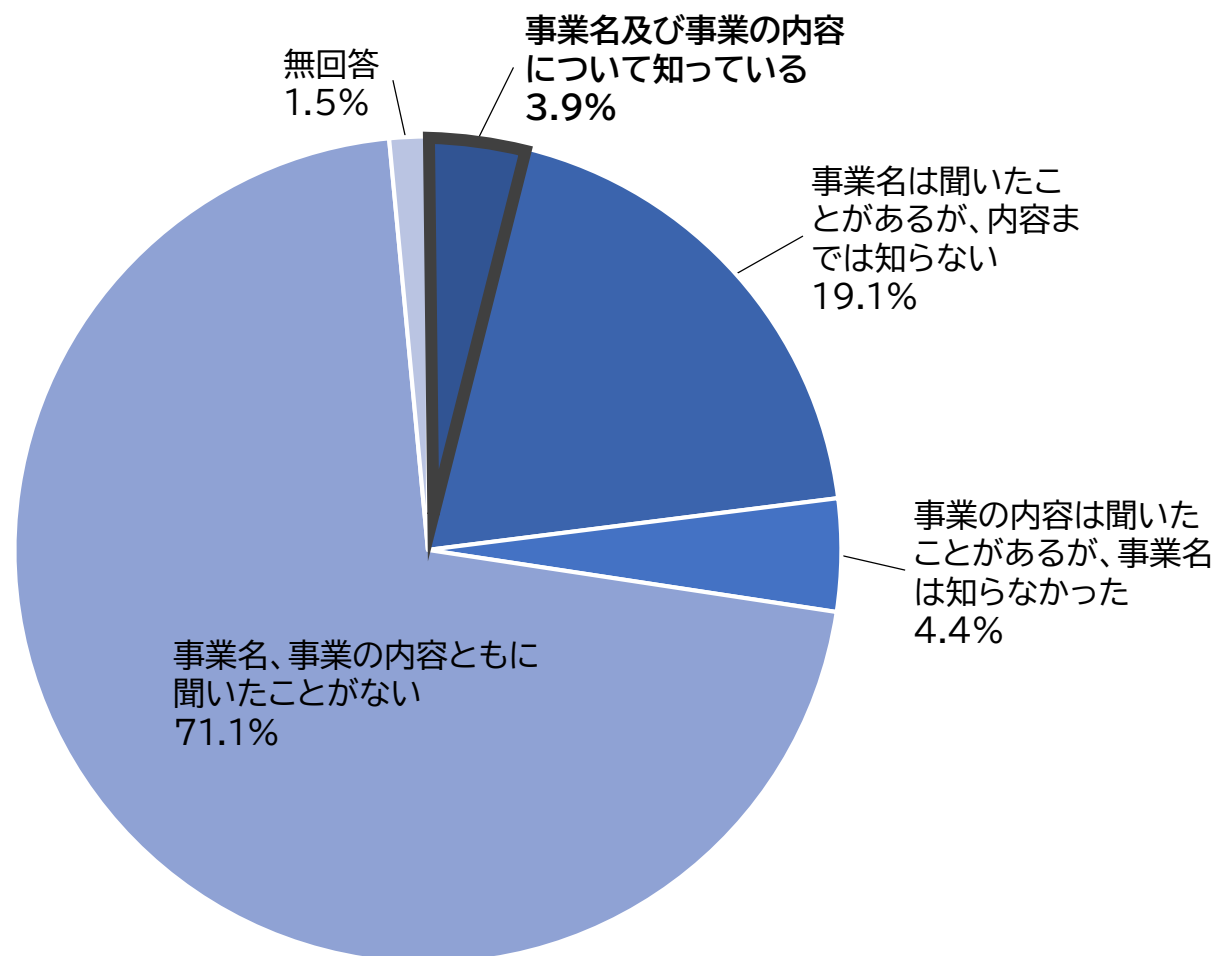




5. 実施事業分析と課題

区民の認知度不足

令和6年度 第2回 足立区政に関する世論(小規模調査) ≪産業に関するアンケート≫
「足立ブランド認定事業」という事業名及び事業の内容を知っていますか。



対外的なPRを実施してきた結果、
 区民との距離が遠ざかっていた、、、



令和8年度は「**区民**」をターゲットにPR事業を実施



区民が「足立区のものづくりの凄さ」を再認識



区民の誇りにつながる。区内外に口コミで広げる



✧ **足立区のイメージアップ** ✧

次なる目標

「事業名及び事業の内容について知っている」を15%に

認定企業の質の担保・価値の向上

背景

- 足立ブランドの第1号は平成19年度。認定当時と社会情勢や企業の状況が変わってきている
- 令和5年度から新規認定を休止し、再認定基準や認定期間などの仕組みを構築。令和6年度より認定年度順に再認定開始
- 行政として企業を認定するにあたり、「SDGsや地域への貢献」「ブランド活動に積極的に参加しているか」といった項目を新たに基準に加えた



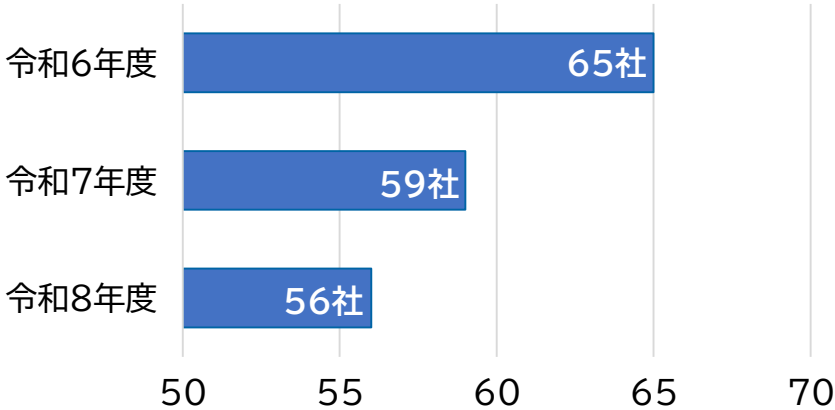
- 令和8年度は再認定3年目
- 最大65社だった認定企業が56社に減少



今年度、足立ブランドの価値向上&新陳代謝のため、新規認定の受付再開に向けて、ロードマップを策定予定

ADACHI BRAND

認定企業数(4月1日時点)



卒業企業一覧

	企業名	卒業理由
1	A社	辞退(区外移転)
2	B社	辞退(ブランド活動の継続困難)
3	C社	不認定
4	D社	廃業
5	E社	辞退(区外移転)
6	F社	辞退(ブランド活動の継続困難)
7	G社	辞退(ブランド活動の継続困難)
8	H社	廃業
9	I社	廃業

②ライトファンの「顧客化」

しずる純さんの動画等で獲得した層へプレス
リリース等を連動させ、足立ブランドのファン
を作る

①新規再開へのロードマップ

令和5年度から休止している「新規認定」の
再開へ向け、ロードマップを策定。並行して
再認定も進める

③商材特性格の見本市選定

企業の特性に応じて、最適な出展先を選定
し、PR・商談の効果の最大化を図っていく

その他、区内商業施設への出展など、区民と接する機会・企画を検討

ご清聴ありがとうございました

区民評価委員会 質疑応答にうつります

産業経済部 産業振興課 ものづくり振興係

公式ウェブサイト: <https://adachi-brand.jp/>

元気応援ポイント事業

令和8年度(令和7年度事業分)

足立区 福祉部 高齢者施策推進室
高齢者はつらつ支援課
介護保険課

本日のご説明

1 事業の概要と背景

2 令和7年度の活動実績

3 今後の展望

本日のご説明

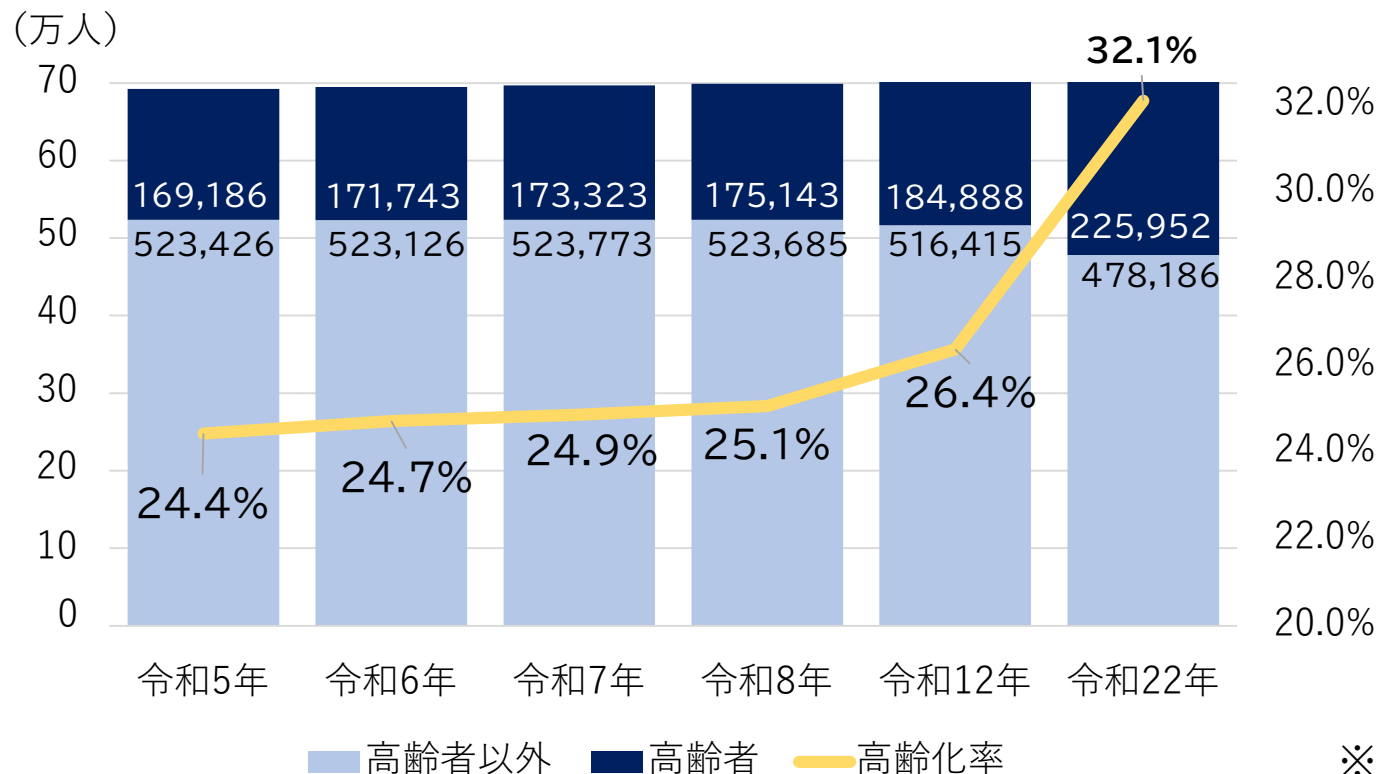
1 事業の概要と背景

2 令和7年度の活動実績

3 今後の展望

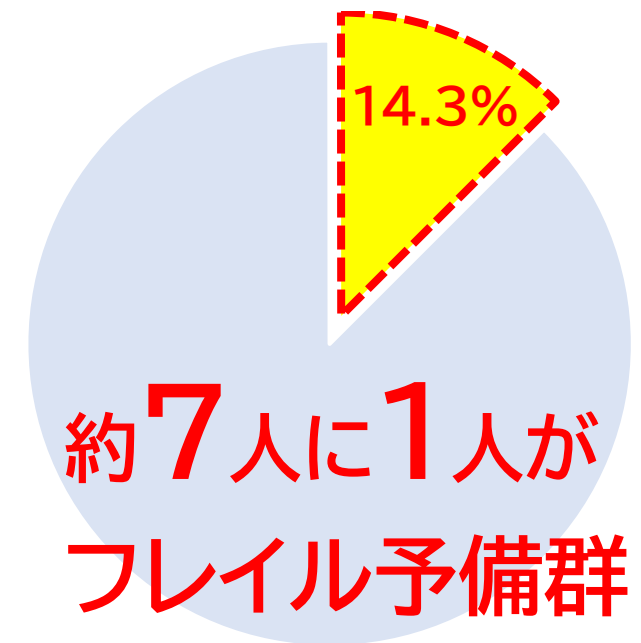
足立区の現状

今後も増加予想の「区内高齢者人口及び高齢化率」



※ 足立区高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画より

足立区のフレイル※予備群の割合



※ フレイル＝加齢により、筋力や心身の状態が低下し、衰弱した状態
 ※ 令和4～6年度介護予防チェックリストの集計結果より

ボランティアを あなたの 生きがいに

最大
15,000円
もらえる！



イラスト

たとえばこんな活動をする...

趣味の延長で

地域のために

人とつながって

イラスト

イラスト

イラスト

演奏の披露

介護施設の環境整備

話し相手



イラスト

1時間でスタンプ1個（100円分）がもらえる！

① 登録

介護保険被保険者証を持ち介護保険窓口または区民事務所でボランティア登録をすると、「元気応援ポイント手帳」と、活動先が掲載されている「受入機関一覧」がもらえます。

② 活動

「受入機関一覧」の中から活動する施設をご自身で選んで連絡していただきます。ボランティア活動を1時間行くと受入機関が手帳にスタンプを1個押します。

③ 交付金申請

手帳にスタンプを集めたら活動交付金の申請ができます。

（スタンプ1個＝100円の換算。1年間の上限令和8年度は15,000円）

④ 褒賞

30時間以上のボランティア活動を5年間行っていると区長から褒賞（褒状と商品券）を贈呈します。

本日のご説明

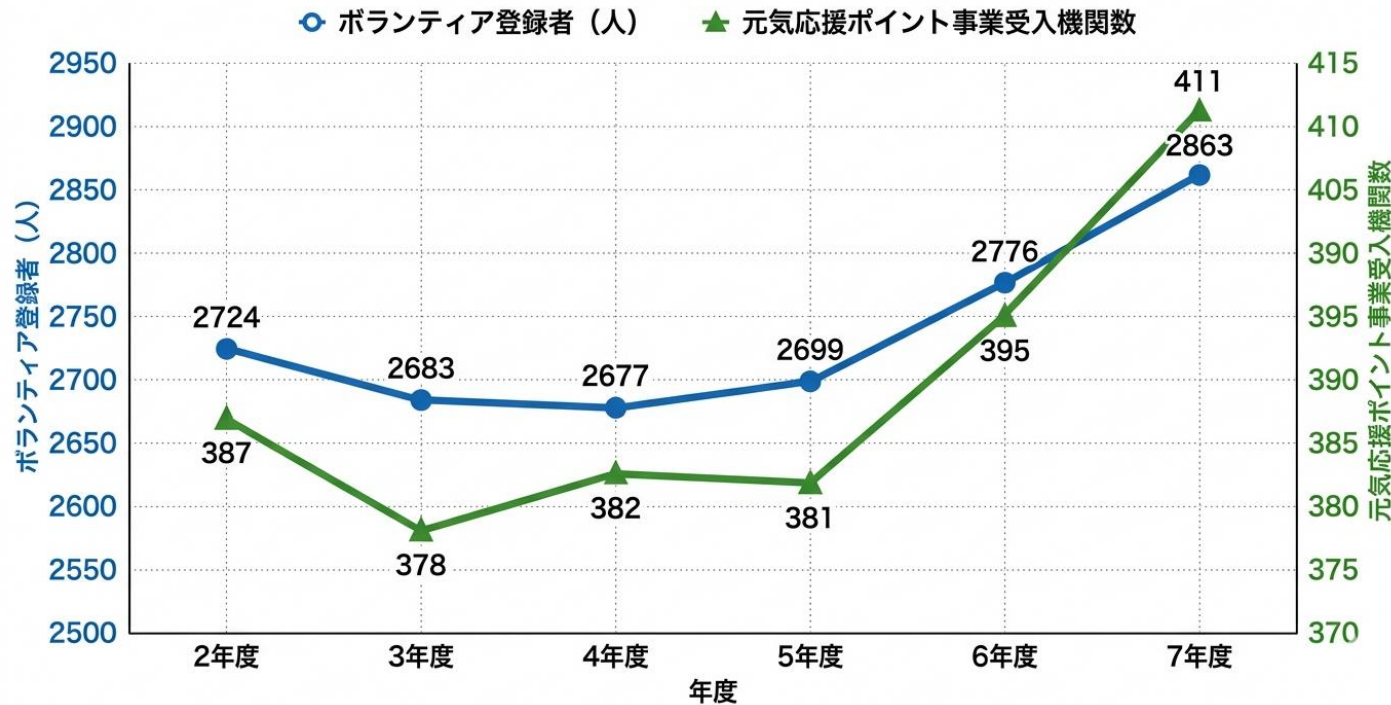
1 事業の概要と背景

2 令和7年度の活動実績

3 今後の展望

事業の推移

登録者数・受入機関数の推移



項目／年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
ボランティア登録者 (人)	2,724	2,683	2,677	2,699	2,776	2,863
元気応援ポイント事業受入機関数	387	378	382	381	395	411
活動交付金支給額 (千円)	4,113	1,988	2,222	3,248	5,266	4,925

コロナ明けの対策

～登録者数・受入機関数を増やすため～

令和5年度

ボランティア活動の再始動に向けて、スタートアップ&リ・スタートキャンペーン及び100スタンプ達成ボーナスポイントプレゼントキャンペーン（それぞれプラス1,000ポイント）を新たに実施

令和6年度

舎人公園千本桜まつり、Aフェスタなどでの周知、日本語ボランティア団体への説明など、ボランティアの周知

令和7年度

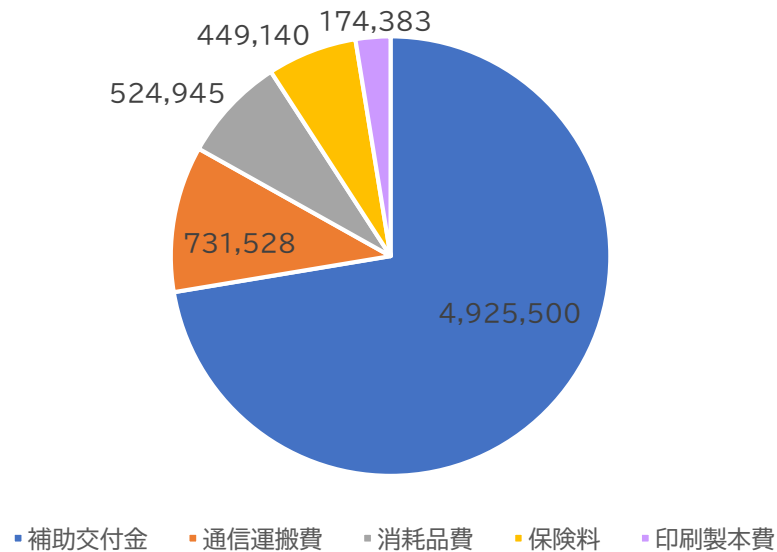
令和5年度のキャンペーン内容に加え、限界突破キャンペーンを実施。これまで最大で10,000ポイントだったものを、最大13,000ポイントに変更。最大15,000ポイントを継続する

分析・評価

令和5年度より登録者数・受入機関数を伸ばすことができた。

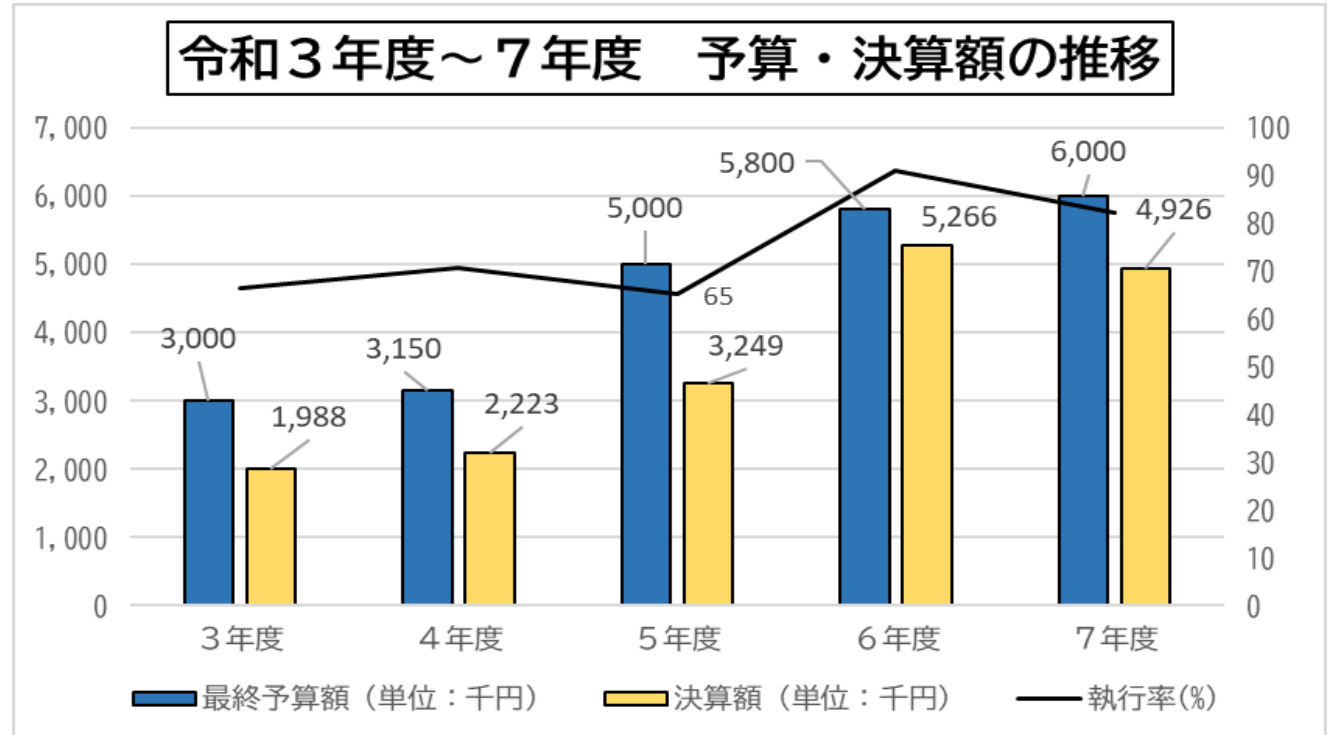
予算・決算

令和7年度元気応援ポイント事業決算内訳



科目	金額(円)	構成比(%)
補助交付金	4,925,500	72.4
通信運搬費	731,528	10.7
消耗品費	524,945	7.7
保険料	449,140	6.6
印刷製本費	174,383	2.6
総事業費	6,805,496	100.0

項目/年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
最終予算額	3,000,000	3,150,000	5,000,000	5,800,000	6,000,000
決算額	1,987,300	2,222,100	3,248,100	5,265,500	4,925,500
執行率(%)	66	71	65	91	82



分析・評価

- ・R6決算 (R5活動) は、キャンペーンの効果で交付金が上昇した。
- ・R7決算 (R6活動) は、キャンペーンを行わず、交付金が減少。
- ・R8決算 (R7活動) に向けて、新規・継続応援キャンペーンや上限ポイント数増加キャンペーン等の活性化策を実施。

元気応援ポイント事業活動褒賞表彰式

元気応援ボランティア活動を継続している方を褒賞しています。毎年11月11日の「介護の日」に表彰式を開催し、対象者に「褒状」と「記念品」を贈呈します。

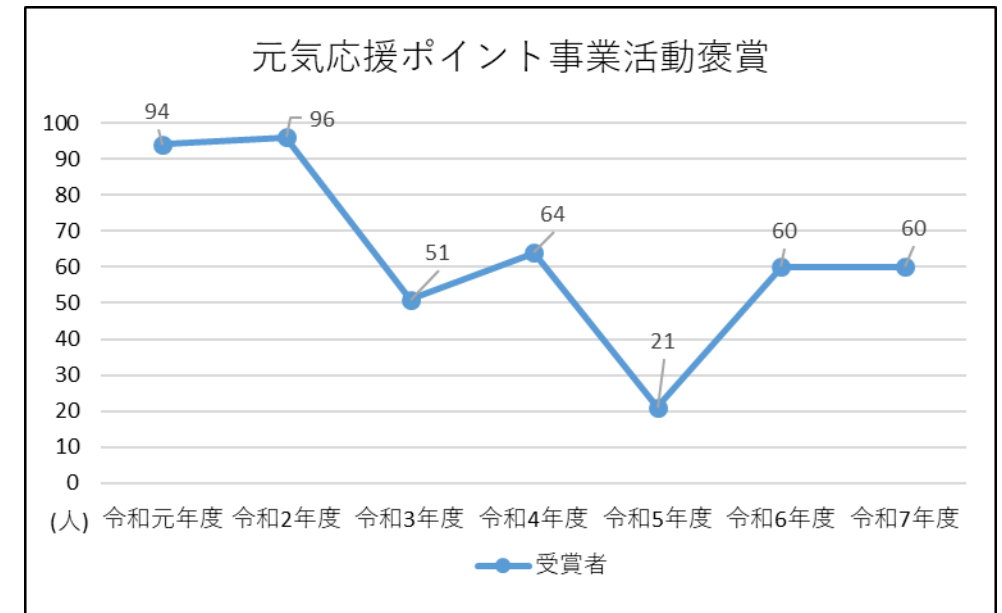
写真(表彰式の様子)

1 状況

- ・受賞対象は、コロナ禍で一度落ち込んだが、回復傾向にある。
- ・令和6年度に初めて、15年以上の方が受賞された。

2 分析・評価

受賞者から「活動の励みになる」などの声があり、ボランティア活動を継続するきっかけとなっており、活動を通じて高齢者の介護予防の一助になっていると考えられる。



令和7年受賞者 (カッコ内は昨年度実績)

継続年数	受賞者数
5年以上	37名 (41名)
10年以上	21名 (15名)
15年以上	2名 (4名)

本日のご説明

1 事業の概要と背景

2 令和7年度の活動実績

3 今後の展望

3 今後の展望

(1)他の介護予防事業との連携

(2)登録者向けアンケートの実施

(1)他の介護予防事業との連携

元気応援ポイント事業の目的

- ①介護予防への認識が高まること。
 - ②社会参加活動等に参加する元気な高齢者が増える。
- 一人でも多くの方に知ってもらう必要性。

(1) 他の介護予防事業との連携

介護予防・認知症予防を
楽しくサポートします。

あだち脳活ラボ

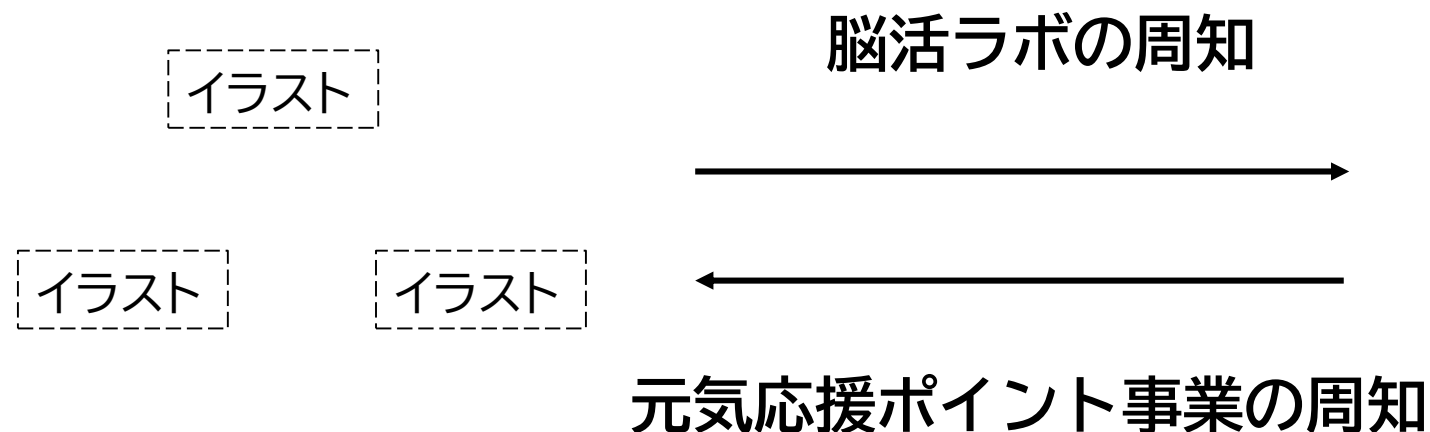
【例えば】

- ・「あだち脳活ラボ」に登録している人へ元気応援ポイント事業の周知
- 登録者数の裾野を広げていく



(1) 他の介護予防事業との連携

元気応援ポイント事業



介護予防・認知症予防を
楽しくサポートします。

あだち脳活ラボ



→介護予防事業同士で周知、登録者を増やしていく

3 今後の展望

(1)他の介護予防事業との連携

(2)登録者向けアンケートの実施

(2)登録者向けアンケートの実施

- ・ 平成20年の事業開始以来、一定程度区民の皆様当事業が浸透してきた一方、ボランティア活動を行っている方の動機やニーズ等を把握し、事業の改善に活かしていくことが必要。
- ・ 今後、登録者向けにアンケートを行い、こうした点を拾い上げ、事業に必要な改善を行う参考としていく。

ボランティアを通じていつまでも元気でいられるよう
に皆様を応援していきます！

イラスト

イラスト

イラスト

令和8年度 区民評価ヒアリング（一般事務事業評価）

足立区こころといのちの相談支援事業 ～これまでの取組と今後の展望～

気づく

つながる

いのちを守る

衛生部
こころとからだの健康づくり課



1 対策に取り組むきっかけ

2 現状とこれまでの取組・成果

3 まとめと課題

4 今後の事業の予定

1 対策に取り組むきっかけ

2 現状とこれまでの取組・成果

3 まとめと課題

4 今後の事業の予定

2008年(平成20年)10月～ 足立区こころといのちの相談支援事業開始

きっかけとなった3つの数字

1位

平成18年、区内の自殺者数が
東京23区内でワースト1位に

1,616人

10年間(H10～H19)で自殺で
失われた人数。区内の町会が
丸々1つ消滅したのに匹敵する数

70%

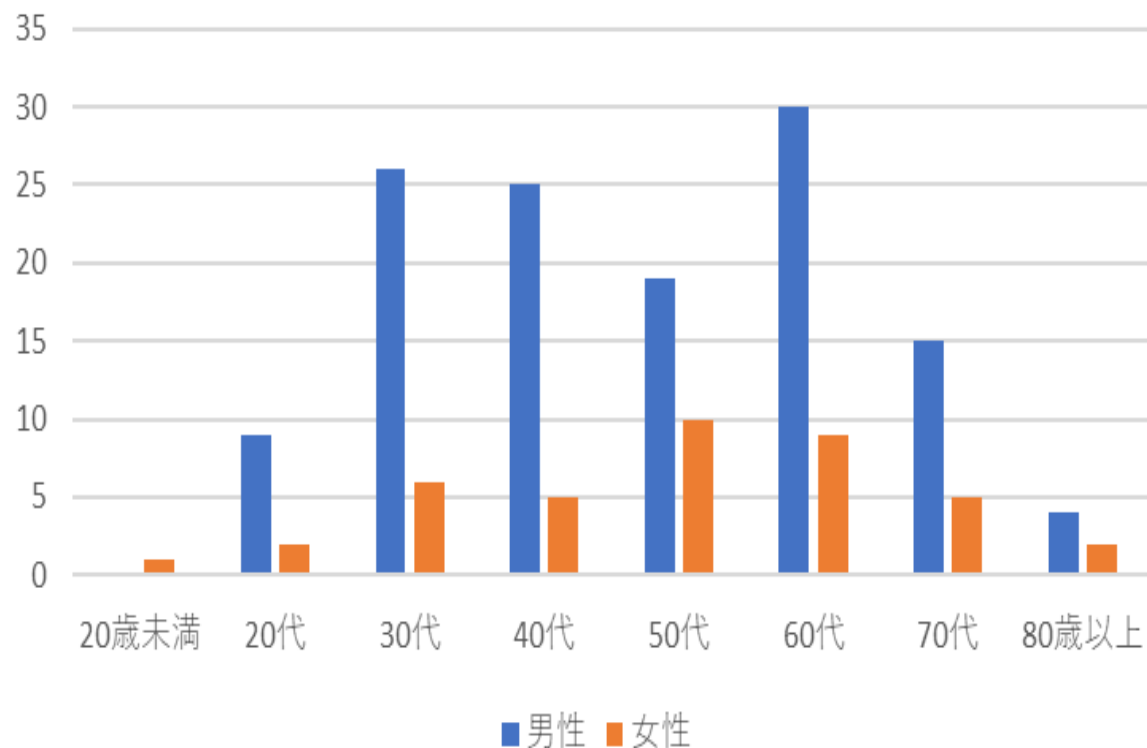
亡くなる前に70%の人が
何らかの相談機関に訪れていた
(ライフリンク自殺の実態1000人調査)



自殺対策開始当初の足立区の自殺の実態

足立区男女別・年齢別自殺者数(人口動態統計)

2009年・平成21年



2010年・平成22年



自殺対策開始当初の足立区の自殺の実態

【足立区のターゲット】
「経済・生活問題」を抱えている
単身・無職の中年男性

【原因・動機別】

	家庭問題	健康問題	経済・生活問題	勤務問題	男女問題	学校問題	その他	不詳
全国	4051	13997	6111	2265	1063	324	1465	7957
	12.95%	44.74%	19.54%	7.24%	3.40%	1.04%	4.68%	25.44%
東京都	255	1110	438	194	116	38	79	1151
	8.69%	37.82%	14.92%	6.61%	3.95%	1.29%	2.69%	39.22%
足立区	21	73	43	9	4	1	4	64
	11.29%	39.25%	23.12%	4.84%	2.15%	0.54%	2.15%	34.41%

【職業別】

	自営業・家族従事者	被雇用・勤め人	無職	職業不詳
全国	2710	8478	19391	703
	8.66%	27.10%	61.99%	2.25%
東京都	232	834	1787	82
	7.90%	28.42%	60.89%	2.79%
足立区	18	45	117	6
	9.68%	24.19%	62.90%	3.23%

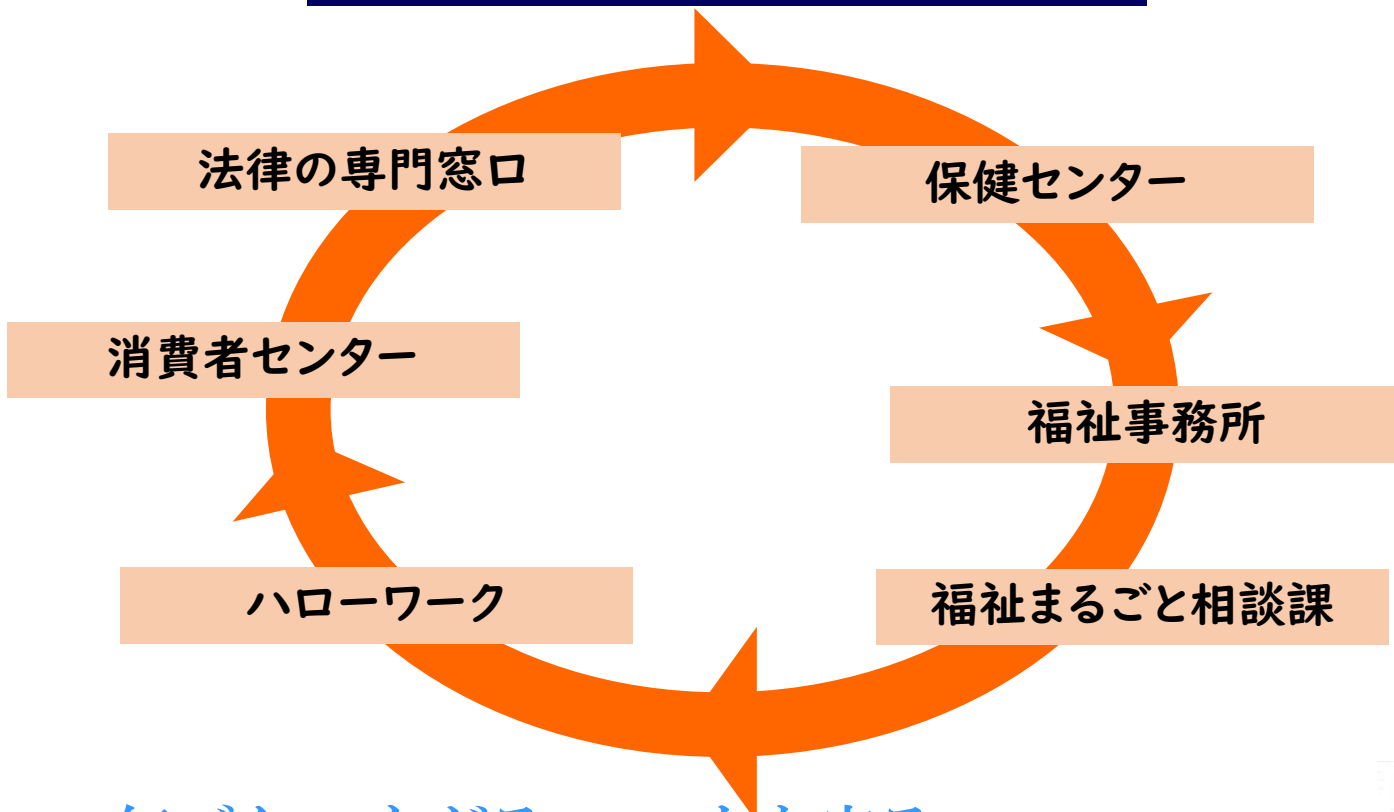
【同居人の有無】

	あり	なし	不詳
全国	22115	8630	537
	70.70%	27.59%	1.72%
東京都	1779	1118	38
	60.61%	38.09%	1.29%
足立区	116	69	1
	62.37%	37.10%	0.54%

足立区の目指す都市型対策モデル

区民のSOS

連携して対応し解決へ



気づく つながる いのちを守る



足立区

1 対策に取り組むきっかけ

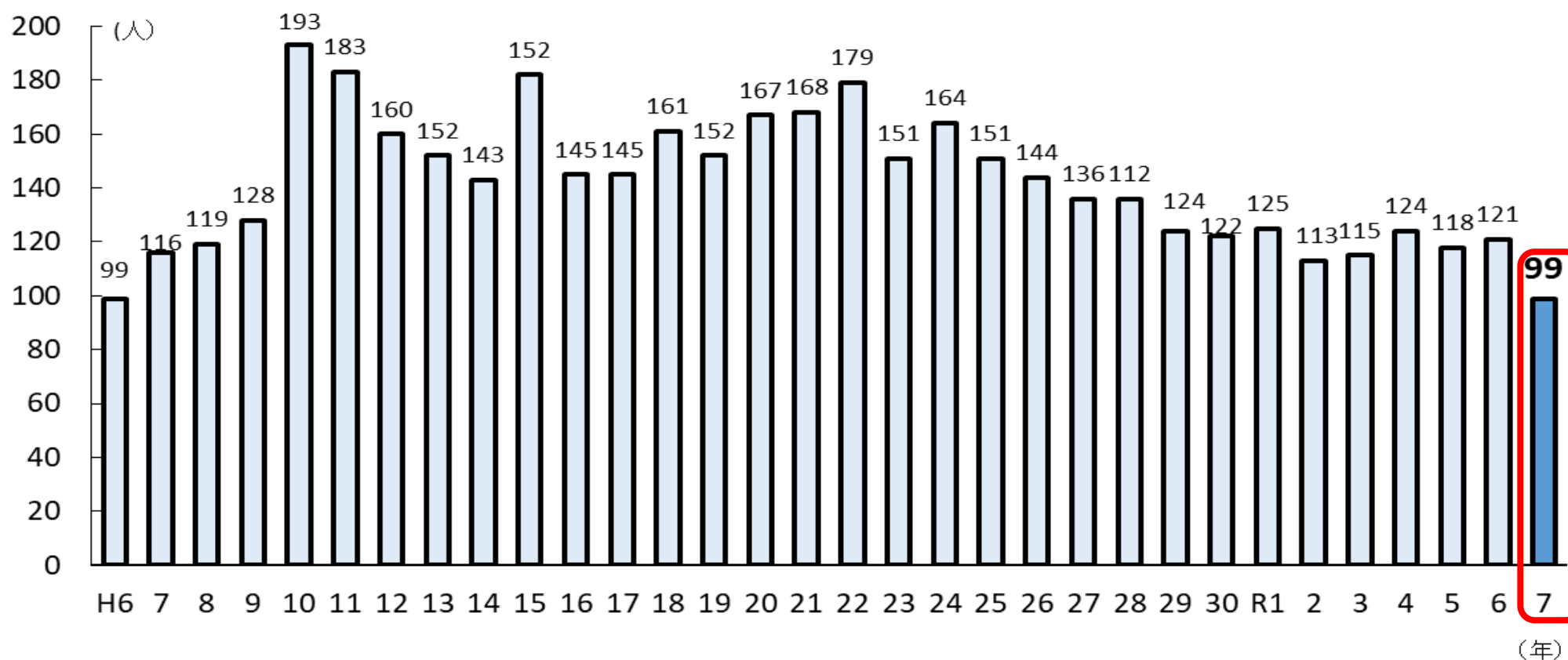
2 現状とこれまでの取組・成果

3 まとめと課題

4 今後の事業の予定

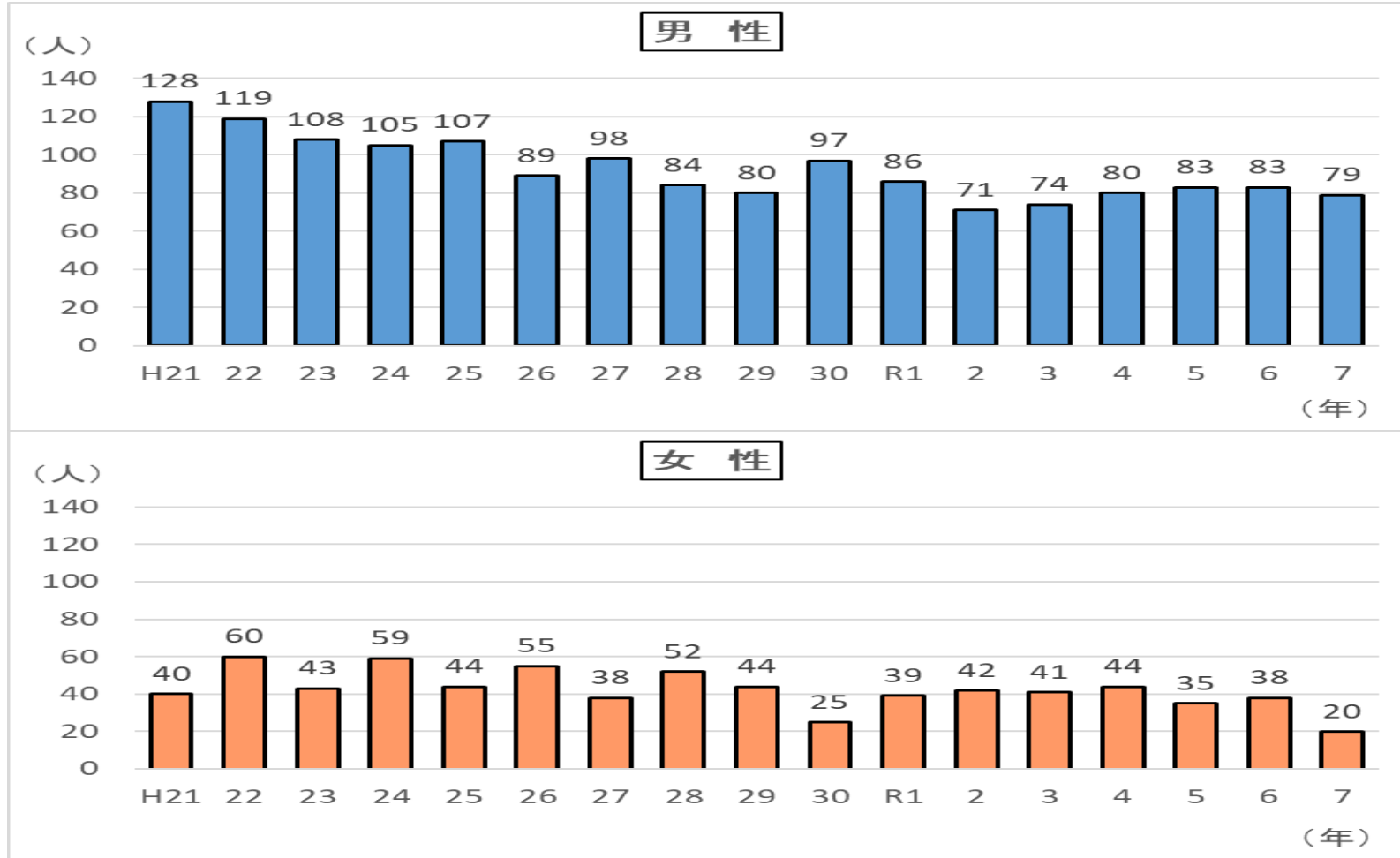
1 自殺者数の推移【H6-R7年】（人口動態統計・R7年は暫定値）

平成25年以降減少傾向で令和2年に底をうった後、増減を繰り返していたが令和7年は減少した。



足立区自殺者の現状

2 男女別 自殺者数の推移【H21-R7年】人口動態統計・R7年は暫定値）

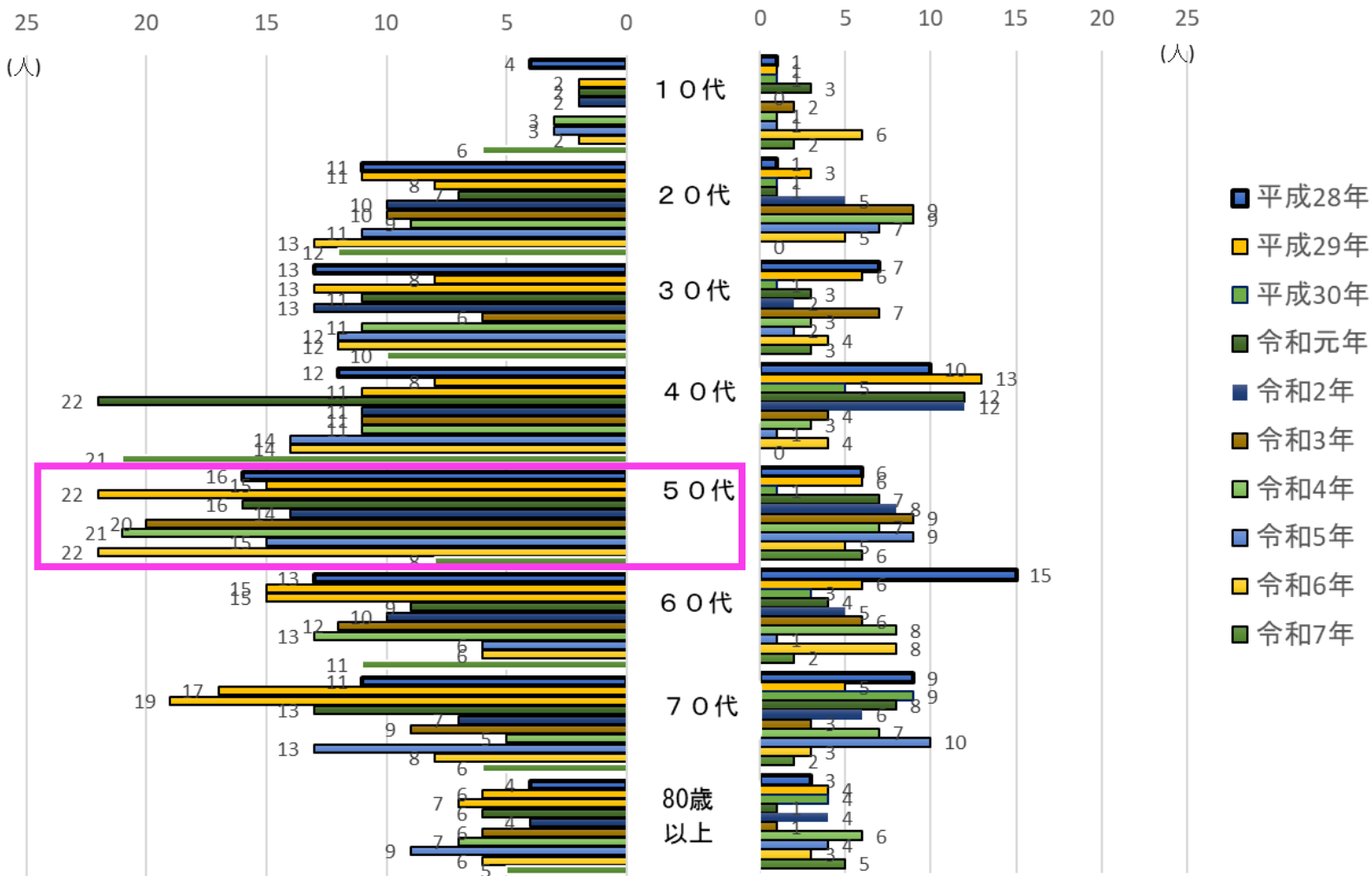


令和7年は令和6年と比較すると男性4人減少、女性18人減少した。男性は女性の約4倍である。



足立区自殺者の現状

3 男女別・年齢別自殺者の推移【H28-R7年】(人口動態統計・7年は暫定値)



自殺者数は50代男性が多いが、令和7年最も多かったのは40代男性である。

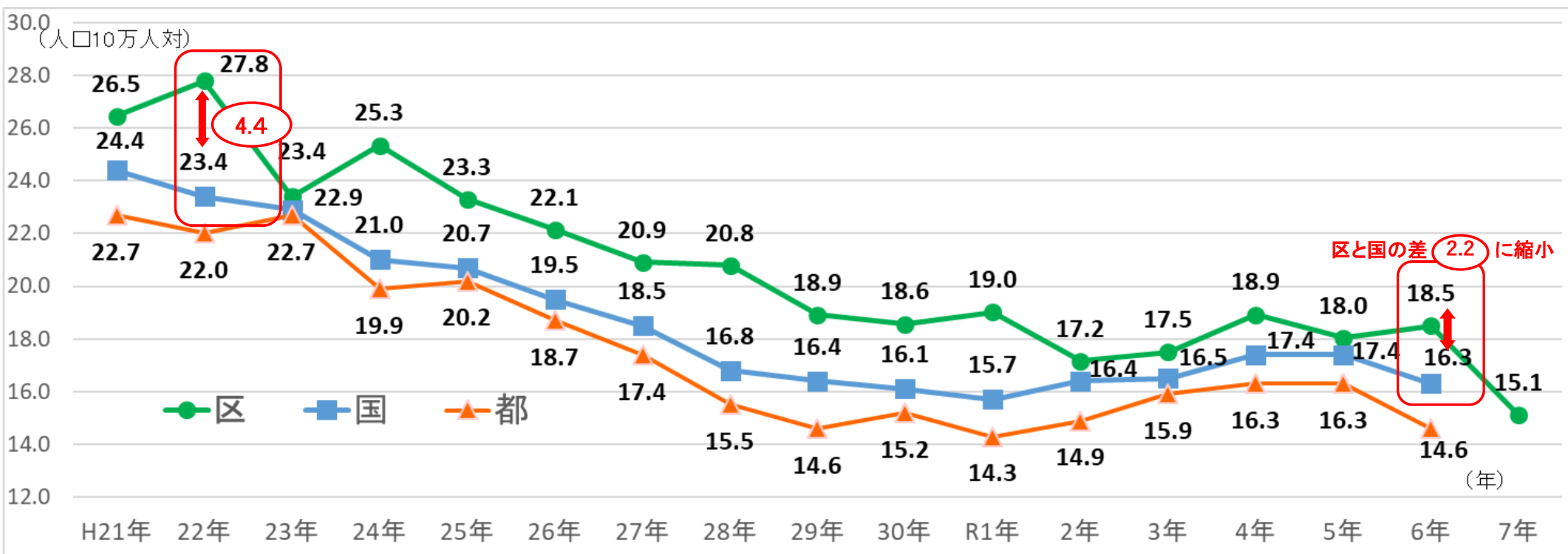


足立区自殺者の現状

【指標2】

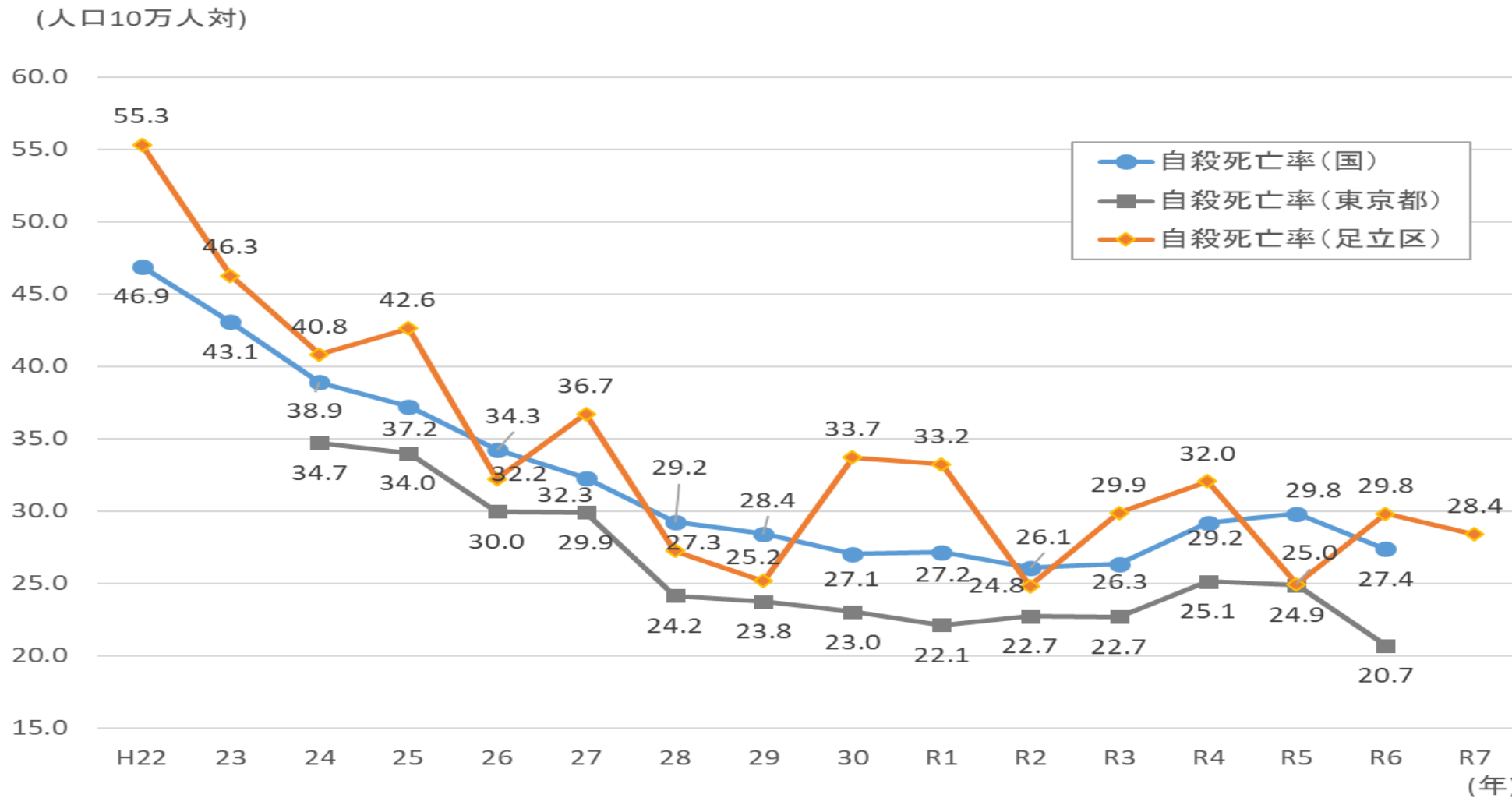
4 国・東京都・足立区 自殺死亡率の推移【H21-R7年】（人口動態統計・R7年区は暫定値）

国や都との差は縮小している。



足立区自殺者の現状

5 40～60代男性自殺死亡率の推移【H22-R7】(人口動態統計より独自集計・R7年区は暫定値)



足立区の取り組み 5つの柱

1

「気づき」のための人材育成

2

当事者に対する支援

3

区民への啓発・周知

4

子ども向けの対策

5

関係機関とのネットワークの強化



1

人材育成

【指標3】

連携するためには共通認識が必要



～ゲートキーパー研修～

習熟度や分野により
幅のある研修を実施



初級研修述べ受講者数:約13,400人(H20年度～R7年度)



気づく つながる いのちを守る



足立区

2 当事者支援 取り組み①

～総合相談会～ 年5回開催
雇用・生活・こころ・法律の総合相談会

足立区

雇用・生活・こころ・法律の
総合相談会

秘密
厳守

弁護士・保健師・専門相談員が
ご相談をお受けします

相談
無料

予約
不要

開催
日時

令和8年 6月9日(火)～13日(土)
① 午前10時～午後3時 受付
※ 直接会場へお越しください。

会場

東京芸術センター
9階 会議室
(足立区千住1-4-1)
JR・東武線・東京メトロ北千住駅から徒歩7分
※ ハローワーク足立が入っている建物です

相談ブースのご案内

雇 用	生 活	こころ・いのち	法 律	ひきこもり
・仕事が見つからない ・仕事が続かない ・働くことに不安がある 仕事に関するお悩みを 専門機関と連携して サポートします。	・家賃が払えない ・電気や水道が止められた ・生活が苦しい 福祉課相談員が生活の お金に関するお困り をサポートします。	・眠れない ・やる気がおきない ・つらい 保健師や専門相談員が 心身の健康について お話を聞きます。	・多重債務 ・離婚 ・労働問題 法的な観点から 弁護士が助言します。	ひきこもりご本人や ご家族の気持ちに 寄り添いながら、 これからのことを 一緒に考えます。

※ 年金や医療保険などの専門的な内容のご相談は、適切な窓口や専門の相談機関へおたずねする場合がございます。

40歳前健診において、
「眠れていますか？」の問診
集団への啓発と個別相談



【2025(R7)年度】
合計 1,693人
眠れていない 157人
医療機関受診など支援が必要な人 6人



2

当事者支援 取り組み② ～インターネット・ゲートキーパー事業～

足立区内（Googleの位置情報）の方が「死にたい」などの語句（400個程度）をGoogle検索

相談を促す（リスティング）広告を表示

表示された広告をクリックし
相談サイトにアクセス

メールやSNS等で相談員
（心理士や精神保健福祉士）に相談

見つけることが難しいハイリスク層
を発見し、効果的に情報を届ける

高

リ

ス

ク

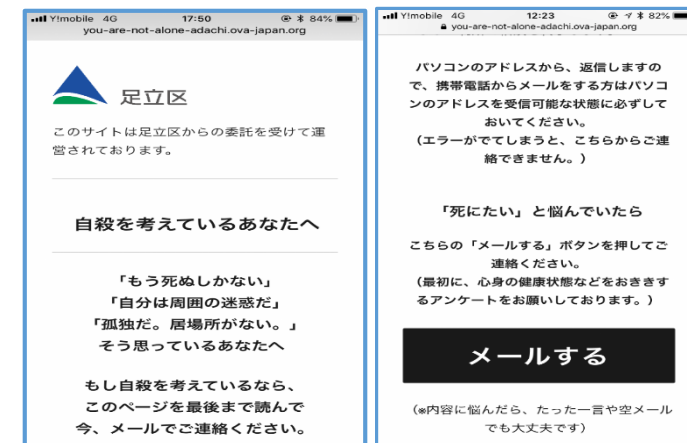
低

チラシや
ポスター

<広告表示画面>



<相談サイト>

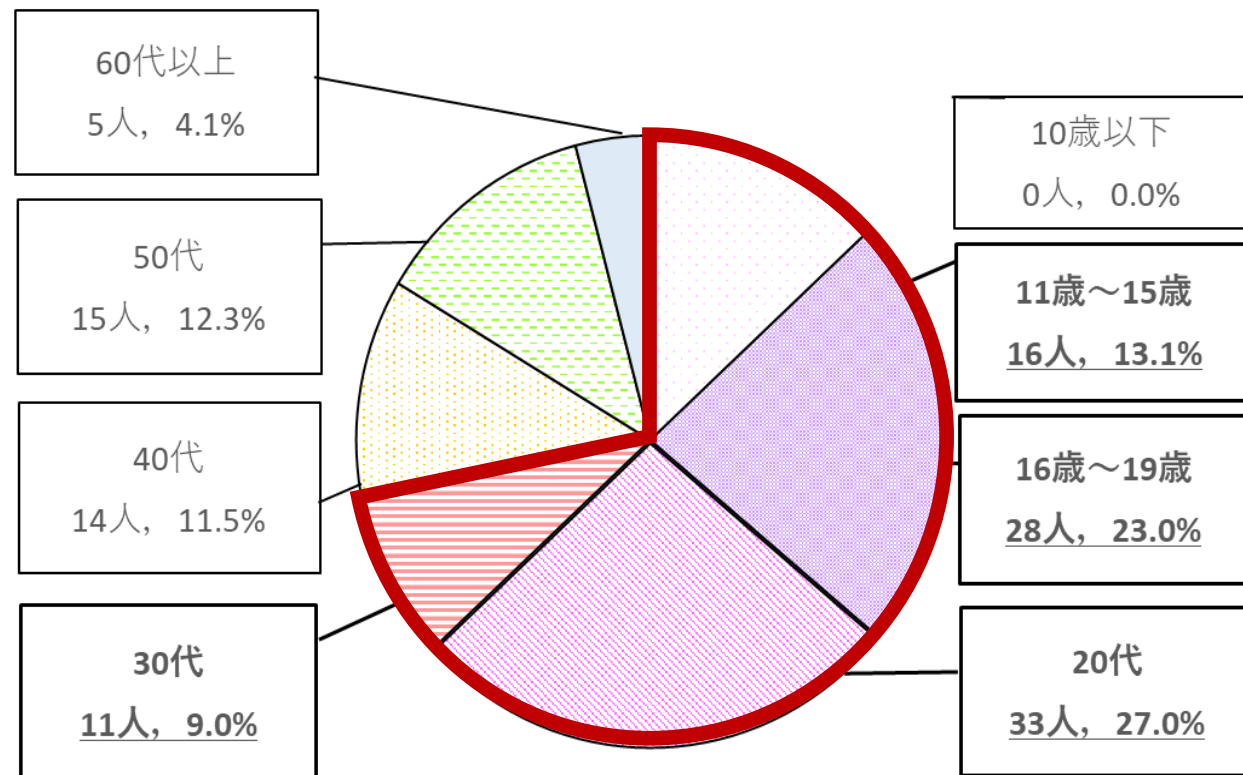


インターネット・ゲートキーパー事業実績

	広告表示回数	広告クリック数	相談者数
R6年度	114,392	10,529	109
R7年度	43,443	3,807	122

10～30歳代の
若年層が72.1%
(R6年度 66.1%)

＜令和7年度 年齢別相談者割合＞



10～30歳代 72.1%



2

当事者支援 取り組み③

寄り添い支援事業

様々な生活上の困難を抱える自殺念慮のある区民に対し、パーソナル サポーター(PS)が継続的な寄り添い支援を行い、新たな一歩を踏み出す援助を行う。

自死遺族の会 とまり木



身近な方を自死(自殺)で亡くされた方を対象に、そのつらさや想いを語り合える場として「分かちあいの会」を実施。

←足立区分かちあいの会「とまり木」リーフレット表紙



3

啓発・周知 取り組み ① 自殺対策強化月間 (9月・3月)

- ◆ ところといのちの講演会の開催
- ◆ ポスターの設置(駅、郵便局、医療機関、薬局など)
- ◆ 懸垂幕・横断幕の設置
- ◆ 自死遺族のパネル展示(区役所、区内図書館)



啓発・周知 取り組み ②

- ◆ 男性向け
- ◆ 女性向け
- ◆ 高齢者向け
- ◆ 児童・生徒向け



子ども向けの対策 ①

～区内小・中学校との連携～

◆特別授業「SOSの出し方等教育～自分を大切にしよう～」を実施(H26年度～)

【目的】

児童・生徒が自己肯定感を高め、将来おきるかもしれない危機的状況に備えて、SOSを出せるよう支援する。

【授業の様子】



【子ども向け相談窓口カード】 【啓発蛍光ペン】



【保護者向けリーフレット】

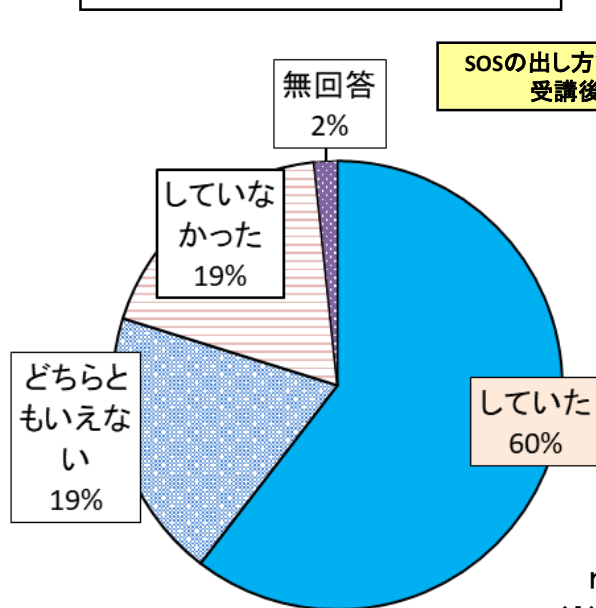


～特別授業の実績～

◆H26年度からの延べ実施人数：95,309人

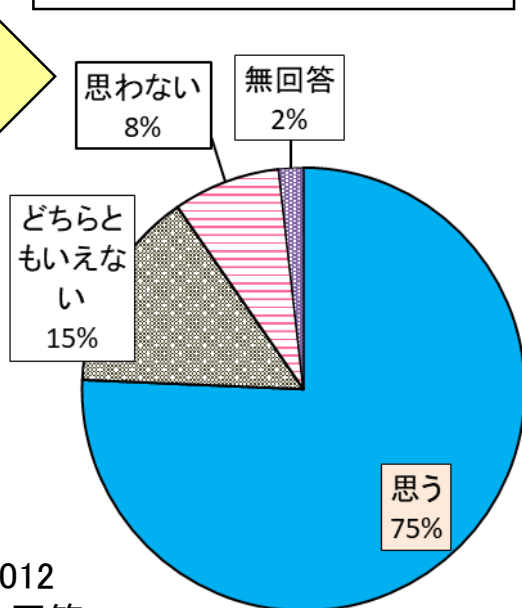
小学校のアンケート結果(H25-R7まとめ)

これまで、困ったときやつらいとき
誰かに相談していましたか？



SOSの出し方等教育
受講後

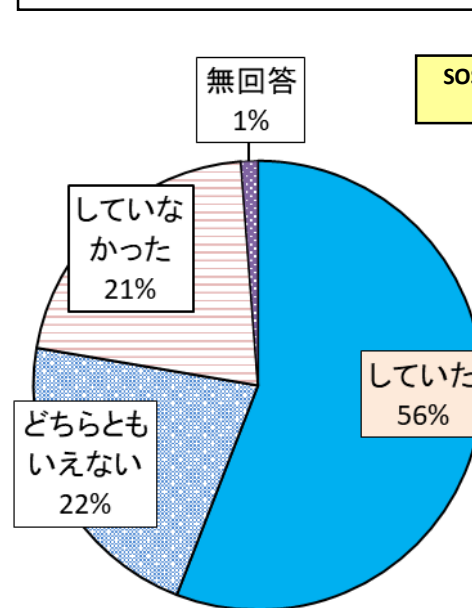
今後、もし困ったときやつらいとき
誰かに相談しようと思いますか？



n=15,012
※ 単一回答

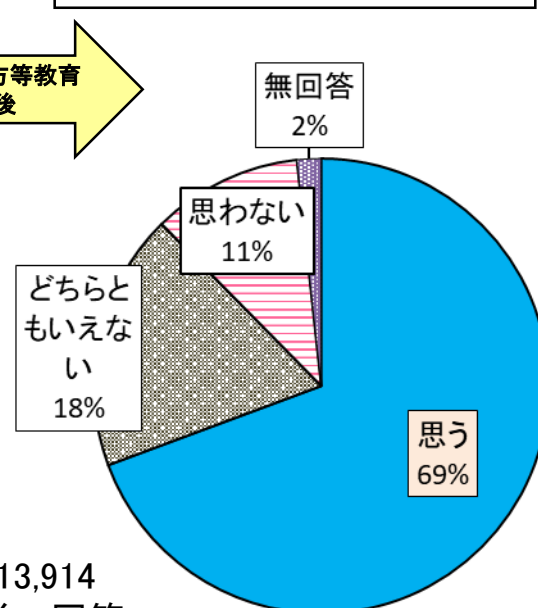
中学校のアンケート結果(H25-R7まとめ)

これまで、困ったときやつらいとき
誰かに相談していましたか？



SOSの出し方等教育
受講後

今後、もし困ったときやつらいとき
誰かに相談しようと思いますか？



n=13,914
※ 単一回答



4 子ども向けの対策 ②

◆ 教員向けゲートキーパー研修の実施(H27年度～)

令和7年度＜1年次(初任者)＞＜中堅教諭等＞＜副校長＞



◆ SOSフィルター(R6年度末～)

児童・生徒に配付しているタブレット端末にインストールする機能。
「死にたい」等の自殺関連用語など深刻な悩みに関する語句を検索した際、相談窓口やセルフケアの方法をまとめたポップアップを表示。

◆ 自殺リスクが高い児童・生徒への対応(ベッド確保事業)(R7年度～)

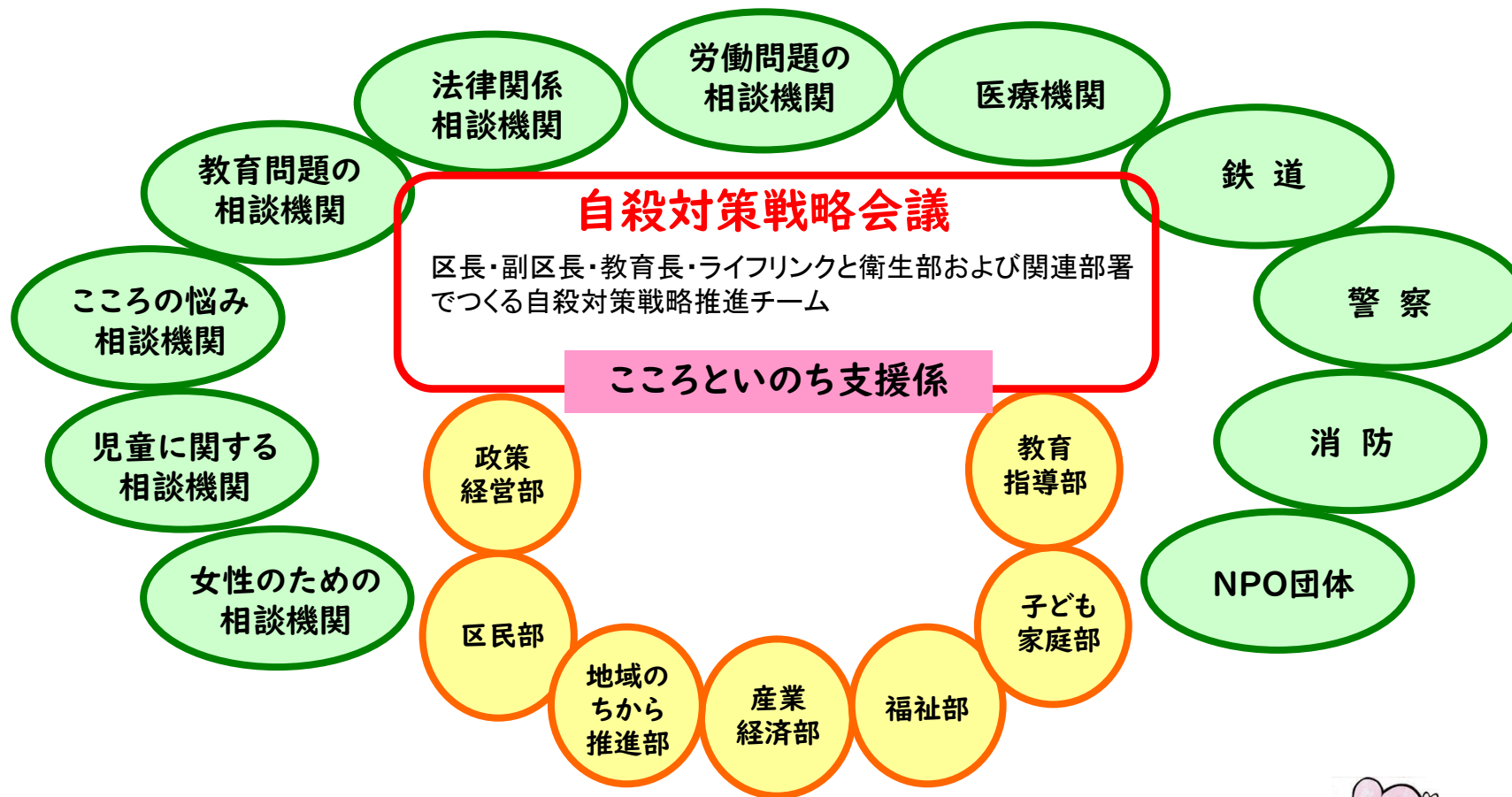
区が精神科医療機関に空床(ベッド)を確保し、精神科専門医が入院が必要と判断した場合にいつでも入院できる事業。



5

ネットワークの強化 ～関連団体との連携～

足立区こころといのちの相談支援ネットワーク（H21年度～）



1 対策に取り組むきっかけ

2 現状とこれまでの取組・成果

3 まとめと課題

4 今後の事業の予定

今までの取組みの総括

◆支援メニューが充実してきた大人への当事者支援

対策開始当初は保健師等による個別相談中心だったが、2009年からは他職種による「雇用・生活・ところ・法律の総合相談会」、2012年からは伴走型の寄り添い支援事業を開始。2024年からは福祉部を中心とした重層的支援事業が開始され、複数の問題を抱える区民を全庁で包括的に支援可能となった。

◆未だ不十分な子どもへの支援

2009年からは生徒向けの「自分を大切にしよう」を区内都立高校で開始。2014年、いじめ対策と連動した自殺対策として、区教育委員会と連携し「SOSの出し方等教育 自分を大切にしよう」および教員向けの研修を開始。その他の対策も進めているが、20歳未満の自殺者数は令和6年8人と最多となり令和7年暫定値で8人と高止まりの状態であり、より一層の対策が必要となる。



1 対策に取り組むきっかけ

2 現状とこれまでの取組・成果

3 まとめと課題

4 今後の事業の予定

令和8年度は特に子どもへの対策を重点的に

▶ 対策① 子どものころ・自殺対策協議会の設置

- ◆ 自殺対策基本法改正により、子どもの自殺対策の体制整備、ハイリスクの子ども継続支援のために協議会が設置可能となった。
- ◆ 区は要保護児童対策地域協議会と兼ねる形で令和8年7月に開始させる。

▶ 対策 ②RAMPS(ランプス)のモデル的導入実施

- ◆ 令和8年度より、子どもの「見過ごされがちな自殺リスク」を可視化して予防につなげるためのITツール「RAMPS(ランプス)」のモデル的導入を区内2か所で実施する。



対策① 子どものころ・自殺対策協議会の設置

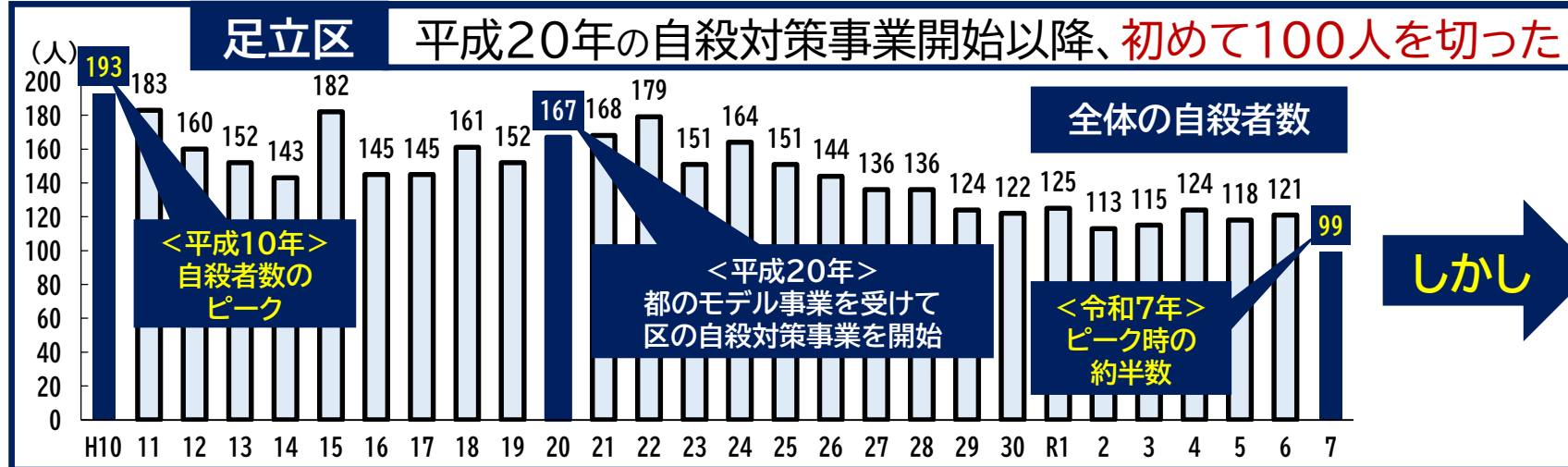
第2号補正
予算に計上

全 国

小中高生の
自殺者数
R7:538人

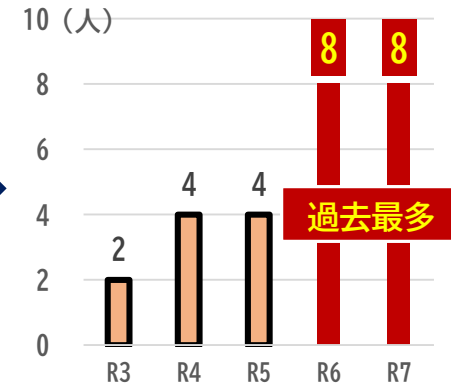
過去最多

歯止めを
かけるために



しかし

10代の自殺者数



※ R7年は暫定値

国は **自殺対策基本法を改正** (令和7年6月)

改正のポイント

「**子どもの自殺対策に係る法定協議会**」
を地方公共団体は設置可能に(令和8年4月施行)

目 的

子どもの自殺対策における**体制整備**、**継続的支援**に繋げる

新たな仕組み

秘密保持義務等により、関係機関の積極的な参加・情報共有が可能に

改正を受けて、足立区は **23区で唯一★** 法定協議会を7月に設置

名 称

「**子どものころ・自殺対策協議会**」

★R8.5.22時点

特徴①

主に虐待事案を取り扱う既存の会議体「**要保護児童対策地域協議会**」(要対協)と**兼ねる形**で設置

特徴②

要対協構成メンバーに自殺対策に知見を持つNPO法人ライフリンクや児童精神科医等を追加

特徴③

18歳未満の子どもの**個別ケース検討会議**を中心に運営

協議会を核とした子ども向け生きる支援（自殺対策）の連動性強化

第2号補正
予算に計上

強化【1】「学校任せ」にしない体制の構築



Point1 子どもの自殺危機対応のためのチームを編成

- ライフリンクや児童精神科医、ケースに応じた子ども支援の関係機関等との連携により、協議会は専門チームとして機能
- 子どもに特化した寄り添い支援等を実施
- 法的根拠を持つ協議会だからこそ、個人情報の共有や機関間連携の正当性も担保。学校、行政、地域が連携して取り組む

Point2 協議会が学校にとっての明確な「受け皿」に

- 子どもの自殺リスクを発見した後の、一人で責任を負いきれない不安からくる対応の躊躇を、制度として乗り越える
- 学校が「気付き」、協議会が「支援」するという体制を構築

強化【2】各取組みの連動性強化 ～「点」を「面」に～

	今まで	新たな取組
① 教育・啓発	■ SOSの出し方等教育 ■ 教員ゲートキーパー研修 ■ 保護者向けリーフレット ■ SOSフィルター	■ NPOなど地域資源を発掘し、全体の連動性強化
② リスクの早期発見・対応	■ SC、SSWの配置 ■ 精神科医療機関でのベッド確保事業	■ タブレットを用いたメンタルヘルスのスクリーニング【RAMPS(ランプス)】中学校1校、居場所(NPO)1か所でR8.7月からモデル実施
③ 危機介入	■ 関係部署による児童生徒の未遂者支援・カンファレンス	■ 法定協議会として、学校等からの情報提供により児童精神科医や弁護士等含めカンファレンスを実施
④ 見守り支援	■ 関係部署による支援	■ 自殺対策に関わるNPO等ネットワークの関係機関と連携した、ライフリンクによる子ども版寄り添い支援



【一部委託】協議会の実効性確保、寄り添い支援の
パッケージ構築のため、ライフリンクの知見を活用！

【12,970千円(内、人件費9,141千円)】

国の協議会運営モデル構築事業を活用し、先進事例を全国に示していく

8月4日(火) シンポジウムを開催予定 @区庁舎ホール

対策② RAMPS(ランプス)のモデル的導入実施

自殺について「言えなかった」「聞けなかった」を解消し、自殺リスクを可視化する。

<実施内容>

生徒等がタブレット端末等を利用して回答する1次検査、及び教職員等が1次検査の結果を踏まえて問診を行う2次検査により、リスクを可視化。

結果に応じた必要な支援を実施する。

<導入先>

- ① 中学校1校(千寿桜堤中学校)
- ② 高校生世代のための居場所1か所(カタリバ)

① 1次検査は、生徒一人ひとりが端末を使って回答



② 周囲の目を気にしなくないように1頁1問のみ

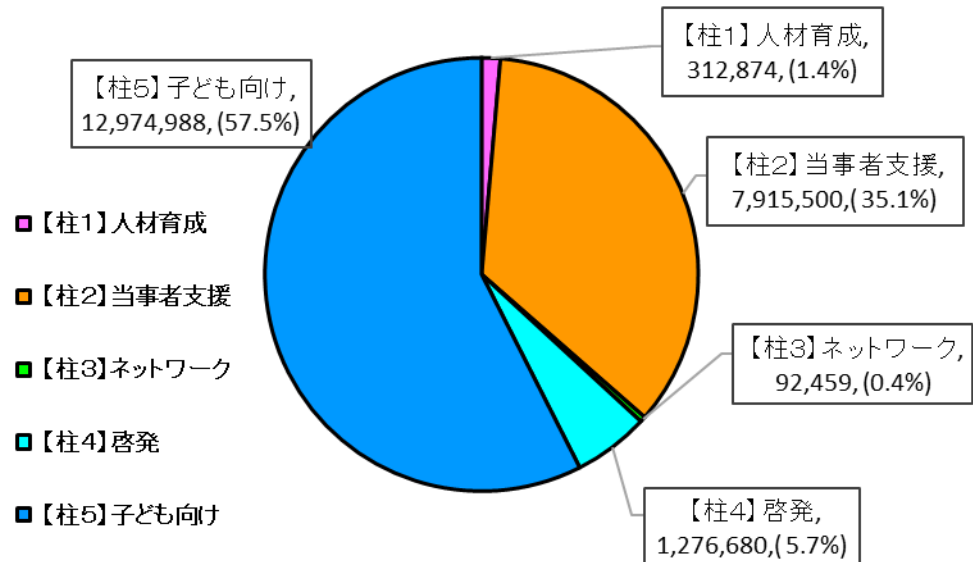


③ 2次検査は、教職員が端末を使って生徒に問診



事業の経過と予算計上の必要性について

<令和7年度ころといのちの 相談支援事業決算額内訳>

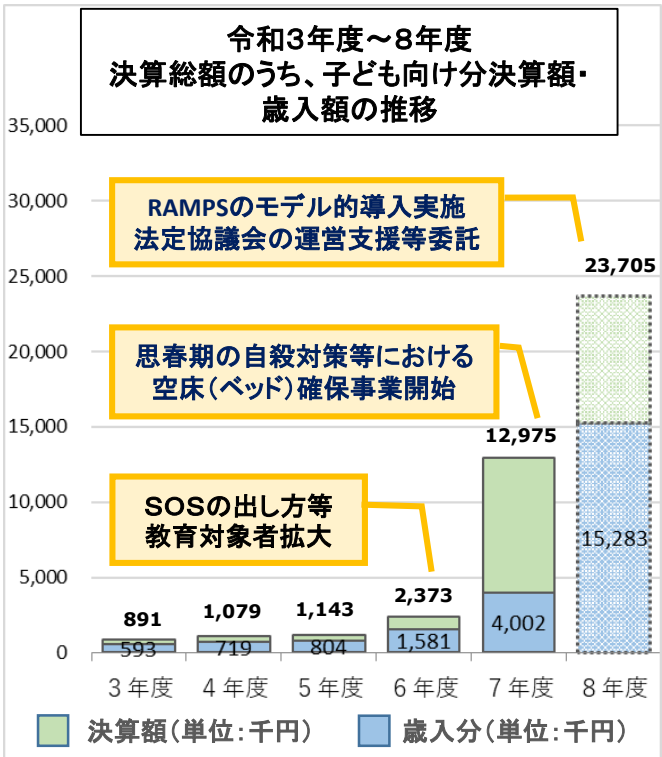
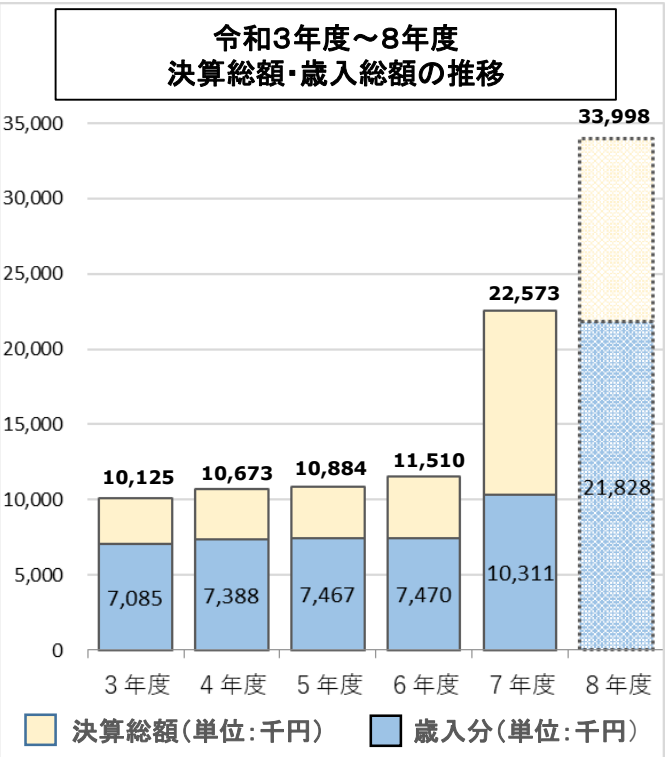


事業の柱	金 額	構成比 (%)
【柱1】人材育成	312,874	1.4
【柱2】当事者支援	7,915,500	35.1
【柱3】ネットワーク	92,459	0.4
【柱4】啓発	1,276,680	5.7
【柱5】子ども向け	12,974,988	57.5
総事業費	22,572,501	100.0

【予算額・決算額・執行率等の推移】

項目/年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度
最終予算額(円)	10,296,000	10,966,000	11,090,000	12,326,000	23,662,000	33,998,000
決算額(円)	10,125,075	10,672,953	10,884,379	11,510,188	22,572,501	—
執行率(%)	98.3	97.3	98.1	93.4	95.4	—

項目/年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度 (予算額)
決算額のうち歳入額(円)	7,085,000	7,388,000	7,467,000	7,470,000	10,311,000	21,828,000
歳入額のうち子ども向け分(円)	593,000	719,000	804,000	1,581,000	4,002,000	15,283,000



※ いずれも8年度は6月補正後の予算額で表示

ご清聴ありがとうございました

